

高知県埋蔵文化財センター年報

第21号

2011年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第21号

2011年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

高知県埋蔵文化財センターは平成23年度も発掘調査事業と指定管理事業を両輪として運営しました。

まず、発掘調査事業では国関係で高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査業務委託を含む3件、県関係では国道195号地域活力基盤創造交付金埋蔵文化財資料整理委託業務を含む3件の計6件の事業を受託し、香南市東野土居遺跡を筆頭に7遺跡の発掘調査と祈年遺跡や向山戦争遺跡を含む5遺跡の整理作業を中心に実施しました。東野土居遺跡の調査面積は32,140㎡と大規模なものとなり、平成24年度は調査予定面積が27,700㎡の田村北遺跡を控えており、ここ一、二年が発掘調査のピークとなります。

次に指定管理事業では出前考古学教室、企画展等事業、公開講座等事業の三本柱で実施しており、指定を受けて2年目に当る平成23年度は、新たに「銅鏡づくり」の開講や親子考古学教室の四万十市と宿毛市での開催や回数を増やすなど多くの県民の方に埋蔵文化財に親しんで頂けるよう昨年度以上に充実した内容の公開講座を用意し、分かりやすい企画展の開催などに努めました。

また、より見やすい年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図ると共に「掘りゆうぜよ高知2011 遺跡の館 夏休み企画」と銘打った夏休み期間の親子考古学教室を中心とした催しを紹介したチラシを県内の小学生全員に配布し、40回開催した親子考古学教室には、延べ1,129人の親子に参加頂きました。

今後も高知県の歴史解明に繋がる発掘調査事業と共にその成果を広く県民の方に伝える広報普及事業を充実するように努めてまいります。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に心の安らぎを与える場となって行きたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年10月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 森田 尚宏

例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成23(2011)年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの2の(4) 出前考古学教室」と「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」は担当が中心となって執筆し、廣田が取りまとめ編集した。それ以外は廣田が執筆、編集した。
3. 「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

本文目次

I 財団法人高知県文化財団..... 1	2. 徳王子広本遺跡(11-2KH)..... 39
1. 財団法人高知県文化財団の概要..... 1	3. 田村北遺跡(11-3NTK)..... 40
2. 財団法人高知県文化財団の組織..... 1	4. 西浦遺跡(11-4IN)..... 42
II 埋蔵文化財センター..... 3	5. バーガ森北斜面遺跡(11-5IB)..... 43
1. 埋蔵文化財センターの概要..... 3	6. 弘人屋敷跡(11-6KY)..... 45
2. 埋蔵文化財センターの組織..... 3	7. 天神溝田遺跡(11-7ITM)..... 48
3. 埋蔵文化財センターの施設..... 5	V 条例・規則等..... 49
4. 利用方法等について..... 6	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例..... 49
III 年間事業の概要..... 7	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則..... 53
1. 発掘調査事業..... 7	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定..... 54
2. 指定管理事業..... 14	
3. その他の事業..... 34	
IV 各遺跡の発掘調査概要..... 35	
1. 東野土居遺跡(11-1KH)..... 35	

表目次

表 1 高知県文化財団役員一覧..... 2	表11 平成23年度公開講座1..... 19
表 2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧..... 4	表12 平成23年度公開講座2(親子考古学教室)..... 20
表 3 発掘調査推移表..... 7	表13 平成23年度Web公開した報告書等..... 21
表 4 平成23年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡) 一覧..... 8	表14 平成23年度物品(県有物)貸出一覧..... 22
表 5 平成23年度受託発掘調査事業(整理作業/報告 書刊行分)一覧..... 10	表15 平成23年度施設等見学者一覧..... 23
表 6 平成23年度埋蔵文化財センター刊行報告書 一覧..... 12	表16 平成23年度現地説明会一覧..... 24
表 7 入館者推移表と平成23年度の入館者..... 14	表17 平成10～23年度出前考古学教室実績一覧... 25
表 8 公開講座参加者数..... 17	表18 平成23年度出前考古学教室前期実績一覧... 27
表 9 平成23年度考古学講座(テーマ「古代人の生活」) 18	表19 平成23年度出前考古学教室後期実績一覧... 29
表10 平成23年度発掘調査報告会..... 18	表20 平成23年度職員専門研修..... 32
	表21 平成23年度埋蔵文化財担当者研修参加者... 32
	表22 平成23年度講師等派遣依頼一覧..... 32
	表23 平成23年度会議等参加者一覧..... 33
	表24 平成23年度職員自主企画研修参加者一覧... 34

図目次

図 1 高知県文化財団組織図..... 2	図 6 平成23年度受託事業発掘調査位置図(番号は受 託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と 一致)..... 9
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図..... 3	図 7 平成23年度受託事業整理作業位置図(番号は受 託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の 番号と一致)..... 11
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800)..... 5	図 8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合... 15
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800)..... 6	
図 5 受託発掘調査事業推移グラフ..... 7	

図 9 東野土居遺跡位置図	35	図13 バーガ森北斜面遺跡位置図.....	43
図10 徳王子広本遺跡位置図.....	39	図14 弘人屋敷跡位置図.....	45
図11 田村北遺跡位置図.....	40	図15 天神溝田遺跡位置図	48
図12 西浦遺跡位置図	42		

写真目次

写真 1 年間行事カレンダー	14	写真 24 土器棺	36
写真 2 企画展1ポスター	15	写真 25 在地土器と搬入土器	36
写真 3 企画展1報告会	16	写真 26 堀に囲まれた館跡(上空から).....	37
写真 4 巡回展ポスター	16	写真 27 堀に囲まれた館跡.....	37
写真 5 企画展2ポスター	16	写真 28 近世遺構完掘状態.....	38
写真 6 特別展ポスター	17	写真 29 弥生土器出土状態.....	39
写真 7 特別展記念講演会.....	17	写真 30 完掘状態.....	39
写真 8 掘りゆうぜよ高知2011	19	写真 31 縄文土器出土状態.....	40
写真 9 授業にいかせる考古学教室.....	20	写真 32 竪穴建物跡	40
写真 10 古代ものづくり体験教室	20	写真 33 土坑からの弥生土器出土状態	41
写真 11 ホームページ.....	21	写真 34 完掘状態.....	41
写真 12 施設見学.....	24	写真 35 青磁出土状態.....	42
写真 13 現地説明会(東野土居遺跡)	24	写真 36 完掘状態(上空から).....	42
写真 14 地元説明会(田村北遺跡)	24	写真 37 土坑からの弥生土器出土状態	43
写真 15 授業.....	26	写真 38 竪穴建物跡	44
写真 16 火起こし.....	28	写真 39 完掘状態.....	45
写真 17 勾玉づくり	28	写真 40 土坑からの遺物出土状態	46
写真 18 土器焼き	28	写真 41 整地遺構.....	46
写真 19 職員専門研修1.....	31	写真 42 柄杓出土状態.....	47
写真 20 職員専門研修2.....	31	写真 43 流路跡	47
写真 21 自主企画研修1(伊勢国政庁跡)	34	写真 44 遺物出土状態.....	48
写真 22 自主企画研修2(WANG NUA 窯)	34	写真 45 遺構完掘状態.....	48
写真 23 竪穴建物跡	35		

I 財団法人高知県文化財団

1. 財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといった県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

(2) 事業内容

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ② 教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③ 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④ 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤ その他文化振興に関する事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2
高知県立美術館内

2. 財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 理事会役員

理事長1名 副理事長1名 理事8名 監事2名

② 事務局

総務部長 - 総務課長 - 事務職員

2. 財団法人高知県文化財団の組織

③ 財団組織図

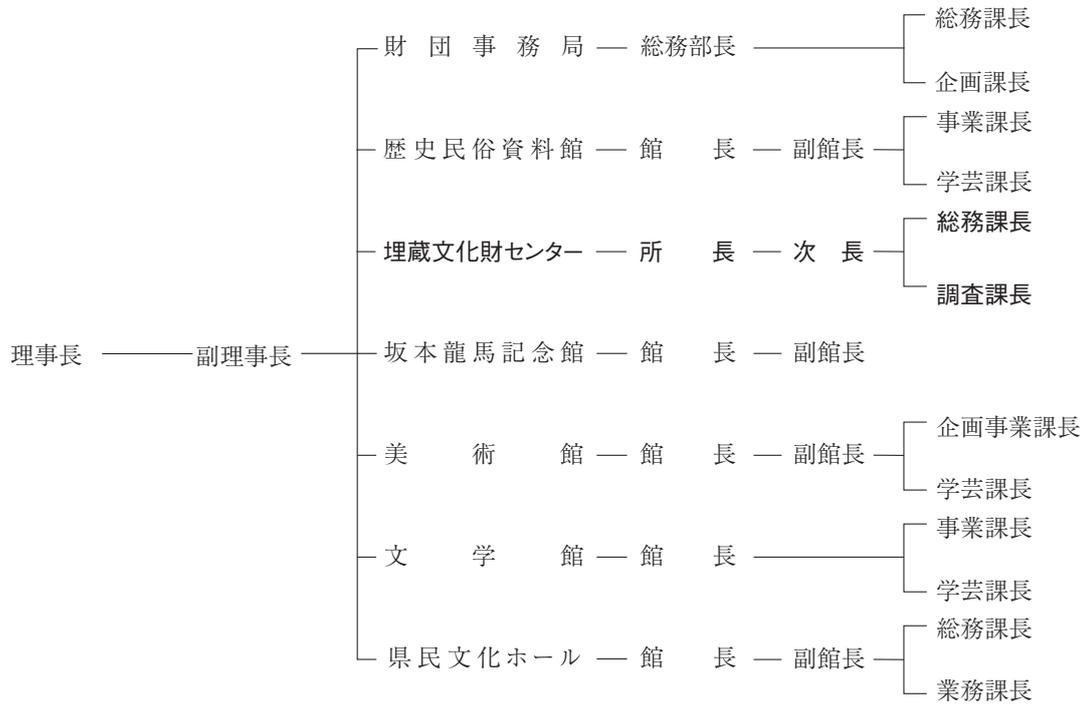


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団役員一覧

役員名	氏名	備考
理事長	千葉 健	
副理事長	青木 章泰	(株)四国銀行取締役会長
理事	伊野部 重晃	(株)高知銀行取締役頭取
〃	大崎 富夫	高知県文化生活部長
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長
〃	山本 眞壽	染織家
〃	吉岡 珍正	高知県町村会長
〃	藤田 直義	高知県立美術館長
監事	吉田 和弘	(株)四国銀行お客様サポート部長
〃	廣光 良昭	税理士

平成24年3月31日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

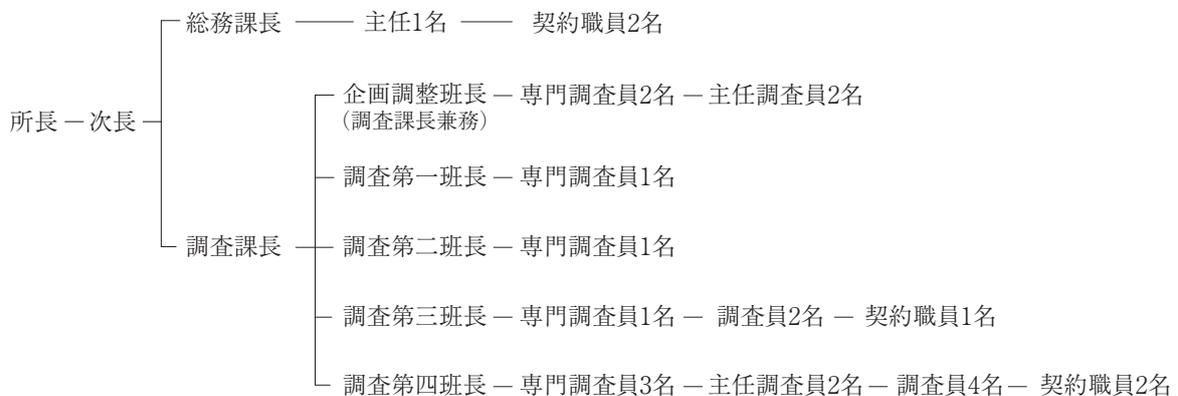


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課副参事	
次 長		嶋崎 るり子	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	里見 敦典	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	黒岩 千恵	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	榊 琴美	(財)高知県文化財団	
	〃	濱田 晶	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長(兼)	廣田 佳久	〃
		専 門 調 査 員	近藤 孝文	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	藤野 明弘	〃
		主任調査員	中石 忍	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	徳平 涼子	(財)高知県文化財団
	調査第一班	調査第一班長	山本 哲也	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	前田 光雄	県教育委員会文化財課主任
	調査第二班	調査第二班長	吉成 承三	(財)高知県文化財団
		専 門 調 査 員	武森 清幸	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
	調査第三班	調査第三班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	坂本 憲昭	(財)高知県文化財団
		調 査 員	宮里 修	県教育委員会文化財課主査
		〃	畠中 宏文	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	眞嶋 里紗	(財)高知県文化財団(5～8月)
		〃	都築 由佳	(財)高知県文化財団(9～3月)
	調査第四班	調査第四班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	安岡 猛	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	小山 求	〃
		〃	谷脇 正	〃
		主任調査員	久家 隆芳	(財)高知県文化財団
		〃	筒井 三菜	〃
		調 査 員	下村 裕	県教育委員会文化財課主査
		〃	山崎 孝盛	〃
		〃	菊池 直樹	(財)高知県文化財団
		〃	松本 安紀彦	〃
契 約 職 員		奥宮 千恵子	〃	
〃	友永 可奈	〃		

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地：高知県南国市篠原1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫：重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.93㎡

(本館：615.58㎡ 北館：259.20㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡ プロパン庫：5.64㎡)

延床面積：4,136.16㎡

(本館：1,038.68㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,527.52㎡ プロパン庫：5.64㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

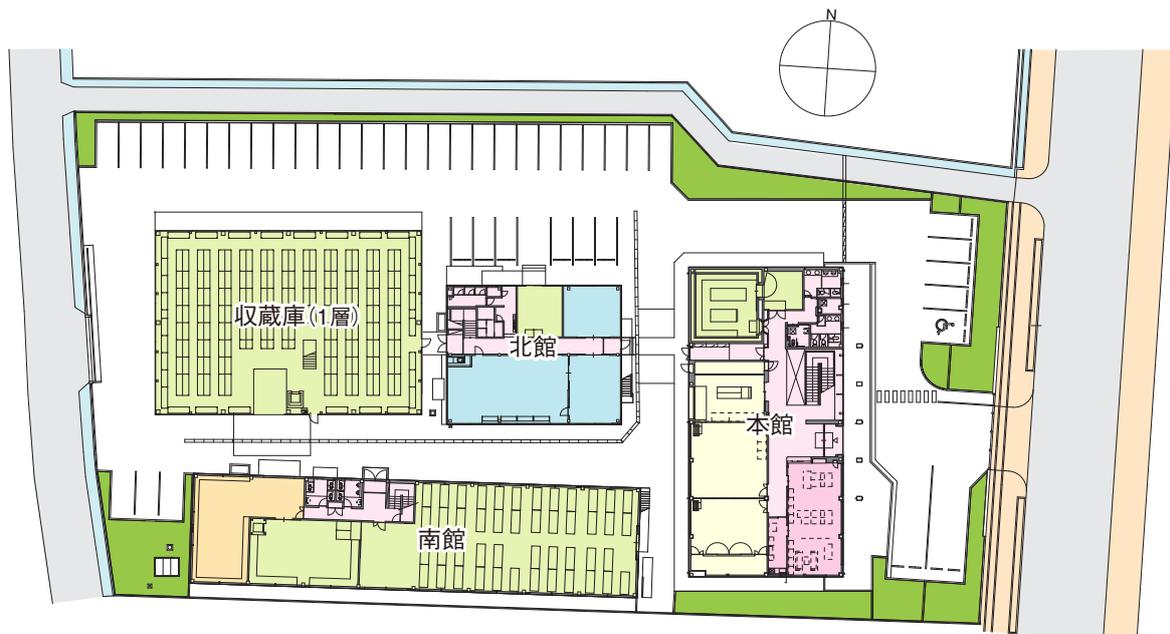


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

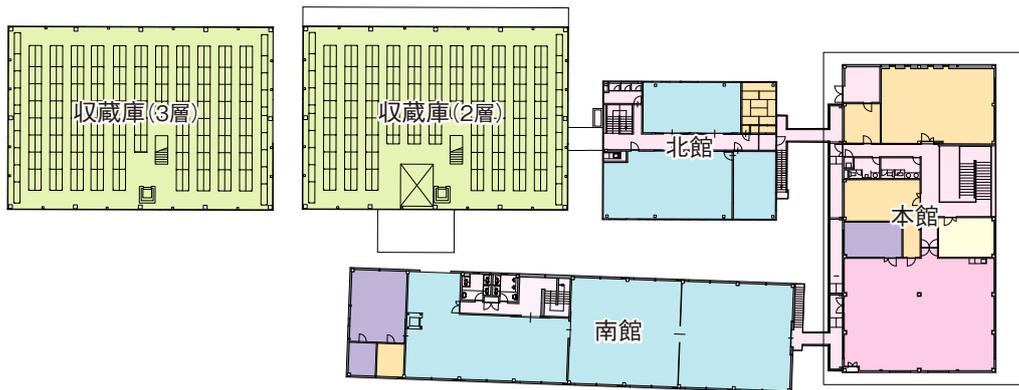


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(巡回展の期間は土・日曜日、祝祭日も開館、企画展2の期間は土曜日と公開講座等開催日は開館)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所 〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel 代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax 代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

平成23年度に受託した発掘調査経費は455,973,000円で、昨年度より53,299,631円増加し、対前年度増加率では約13%の増であった。昨年度に比べ受託件数で1件、調査面積で12,677㎡増加した(表3、図5)。調査面積の増加に比べ受託件数が少ないのは、土佐国道事務所関係の高知南国道路(4遺跡)、南国安芸道路(6遺跡)、高知西バイパス(6遺跡)が1つの契約で行われたことによる。また、調査面積が対前年度増加率で約43%増加したのは、後述する南国安芸道路関係の東野土居遺跡の遺跡範囲が広くかつ発掘調査が最終年度であったため、調査面積が32,140㎡となったことによる。

経費の内訳は、国関係が409,219,650円(89.7%)、県関係が46,753,350円(10.3%)で、昨年度に比べ県関係が1.3ポイント増加した。その要因は新たに新資料館建設に伴う弘人屋敷跡の発掘調査を受託したことによる。

今後の発掘調査事業の状況は、平成24年度に県内最大規模を誇る田村遺跡群の北辺に所在する田村北遺跡の本調査が予定されている以外は未定で、平成25年度以降大きく縮小することが予想されている。

国関係では、土佐国道事務所関係の高知南国道路外(高知南国道路・南国安芸道路・高知西バイパス)、高知河川国道事務所の波介川河口導流事業及び高知法務総合庁舎新営に伴う埋蔵文化財発掘調査業務の3事業を受託した。発掘調査は南国安芸道路

表3 発掘調査推移表

年 度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	25,910㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	90,546㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,902㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	6,052㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,119㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
平成22年度	5件	29,831㎡
平成23年度	6件	42,508㎡
合 計	318件	850,603㎡

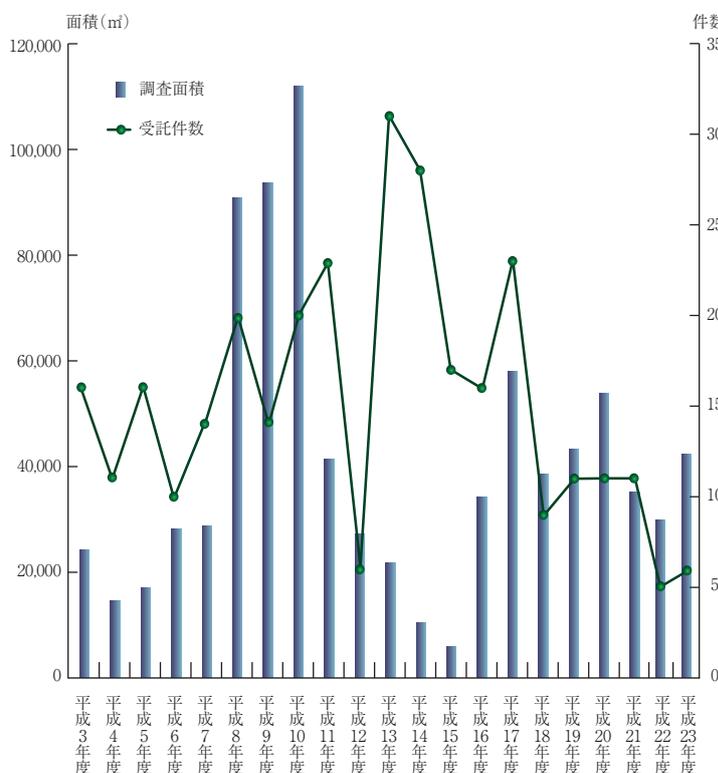


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

を中心とした土佐国道事務所関係だけで、波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡と北ノ丸遺跡、高知法務総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡については整理作業のみであった。

高知南国道路外では平成15年度から始まった高知南国道路と南国安芸道路、平成19年度から着手した高知西バイパスがあり、高知南国道路では調査対象となった高知南IC(仮称)から高知空港IC(仮称)までの区間で、調査が残っていた南国市田村北遺跡の調査に本格的に着手した。平成24年度が発掘調査の最終年度で、対象面積は27,700㎡を予定しており、平成25・26年度に整理作業を行い、高知南国道路関係の調査を終了する予定である。

南国安芸道路は、当面の調査対象となっている香南のいちICから香南やすIC間で残っていた香南市東野土居遺跡と徳王子広本遺跡の調査を実施した。今後、香南のいちICから高知空港IC間の3.5kmが残っているが、発掘調査は未定となっている。

一方、高知西バイパスは、いの町枝川ICから鎌田IC間が当面の調査対象で、本年度はバーガ森北斜面遺跡(岩神地区)と西浦遺跡及び天神溝田遺跡の一部で調査を行った。平成24年度に残っている天神溝田遺跡と奥名遺跡の調査を行い当面の調査を終了する予定である。

波介川河口導流事業は平成21年度までに平成16年度から開始した発掘調査が終了し、平成22年度から本格的な整理作業を開始し、平成23年度に残りの報告書を刊行して整理作業がすべて終了した。

高知法務総合庁舎新営に伴う発掘調査を実施した西弘小路遺跡も平成23年度が最終年度で、報告書を刊行し、整理作業を終了した。

県関係では、土木関係と新資料館建設事業(文化生活部)関係の2つがあった。土木関係は高知県中央東土木事務所関連の事業で、平成19年度から着手し、平成21年度までの3ヵ年間実施した祈年遺

表4 平成23年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	事業者	原因	委託者
1	東野土居遺跡	11-1KH	香南市野市町 東野・土居	弥生 ～ 近世	集落跡	32,140	4/25 ～ 2/20	国交省	道路	県教委
2	徳王子広本遺跡	11-2KH	香南市香我美町 徳王子字広本	弥生 ～ 中世	集落跡	2,250	6/14 ～ 8/8	国交省	道路	県教委
3	田村北遺跡	11-3NTK	南国市田村乙	弥生 ～ 中世	集落跡	2,800	9/27 ～ 1/31	国交省	道路	県教委
4	西浦遺跡	11-4IN	吾川郡いの町 西浦	中世 ～ 近世	集落跡	1,500	4/25 ～ 8/9	国交省	道路	県教委
5	バーガ森北斜面 遺跡	11-5IB	吾川郡いの町 是友・奥名	弥生 ・ 古代	集落跡	2,400	8/1 ～ 1/31	国交省	道路	県教委
6	弘人屋敷跡	11-6KY	高知市追手筋・ 帯屋町	中世 ～ 近代	屋敷跡	1,138	11/24 ～ 3/8	高知県	建物	高知県
7	天神溝田遺跡	11-7ITM	吾川郡いの町字 天神	古代 ～ 中世	集落跡	280	1/16 ～ 3/7	国交省	道路	県教委
合計						42,508				

遺跡名のNo.は、「IV 各遺跡の発掘調査概要」の遺跡の番号と同一である。

跡の整理作業(契約としては2件-4~11月, 12~3月-)を引き続き行い4分冊で刊行が予定されている報告書の内3分冊までを刊行した。平成24年度に4分冊目の報告書を刊行して整理作業が終了する予定である。

一方、新たに新資料館建設事業に伴う発掘調査事業を平成25年度までの3ヵ年計画で受託し、弘人屋敷跡の発掘調査事業に着手した。

埋蔵文化財センターの体制(図2, 表2)は、前年度と同じ正職員24名(嘱託職員を含めると27名)であった。内訳は考古専門職員が16名(県派遣8名, 財団職員5名, 嘱託職員3名), 県派遣の事務職員が3名, 派遣教員が8名である。組織構成は所長, 次長の下に総務課と調査課を置き, 総務課は総務課長1名, 主任1名, 契約職員2名, 調査課は調査課長(企画調整班長を兼務)の下に, 広報普及事業等を行う企画調整班, 発掘調査事業を行う調査第一班から調査第四班を置く。調査課の人員内訳は調査課長兼企画調整班長1名, 調査班長4名, 調査員18名(専門調査員8名, 主任調査員4名, 調査員6名), 契約職員3名であり, この内実質的に発掘調査・整理作業を担当するのは考古専門職員13名, 派遣教員5名である。

調査課の業務分担は, 企画調整班が物品(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開, 企画展等事業, 公開講座等事業, 出前考古学教室など指定管理に関わる広報普及業務, 調査第一班が県関係(県土木事務所), 調査第二班が高知西バイパス, 調査第三班が高知河川国道事務所関係, 調査第四班が土佐国道事務所関係に関する事業であった。

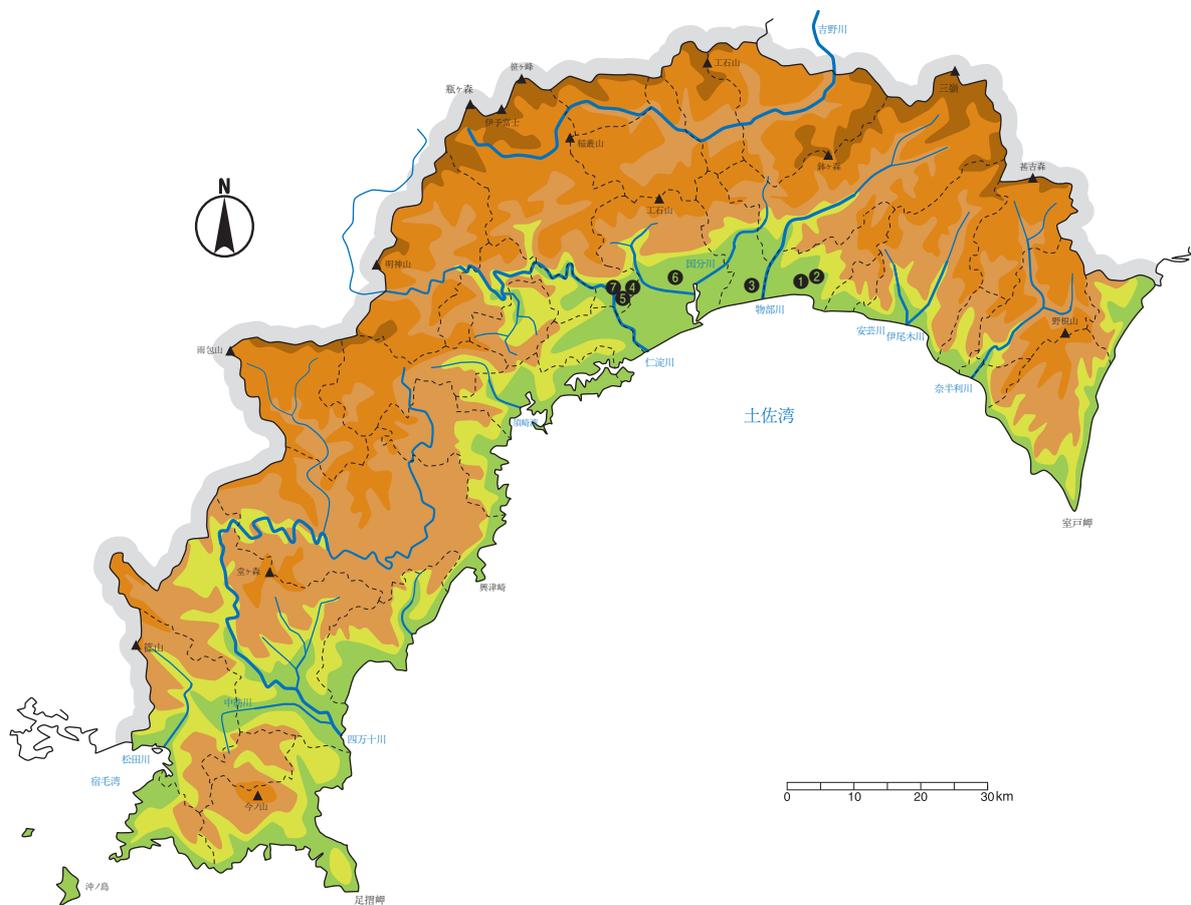


図6 平成23年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

1. 発掘調査事業

(1) 受託事業

平成23年度の受託事業件数は6件⁽¹⁾で、発掘調査と整理作業の両方が2件⁽²⁾、整理作業のみが4件⁽³⁾であった。これを遺跡数で見ると、発掘調査が7遺跡(表4, 図6)⁽⁴⁾、整理作業が13遺跡⁽⁵⁾(内報告書を刊行した遺跡は5遺跡⁽⁶⁾)の20遺跡となる。

調査面積は前述のとおり昨年度より12,677㎡増え、対前年度増加率は約43%の増であった。平成20年度以降年々減少していた調査面積が平成23年度大きく増加した要因は東野土居遺跡の発掘調査面積が32,140㎡と突出して広がったことによる。背景には南国安芸道路の香南のいちICから香南やすIC間の開通予定が迫り、平成23年度中に発掘調査を完了しなければならなくなったことがある。

受託先は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託3件、高知県からの受託事業には中央東土木事務所関係の祈年遺跡の整理作業に係る国道195号地域活力基盤創造交付金埋蔵文化財資料整理委託業務2件と文化生活部の新資料館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託1件の計6件があった。

次に、各事業について具体的にみてる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の内、高知南国道路外として契約し、平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)と平成19年度から着手した高知西バイパスに伴う発掘調査・整理作業がある。高知南国道路では、田村北遺跡の一部の発掘調査を行うと共に向山戦争遺跡の報告書作成を中心とした整理作業を行った。田村北遺跡については試掘調査の結果、30,500㎡が調査対象となっており、平成23年度は遺跡東部の2,800㎡の調査を実施した。平成24年度に残りの約27,700㎡の調査を行い終了する計画である。

南国安芸道路では、昨年度に引き続き東野土居遺跡の本格的な発掘調査を行うと共に徳王子広本遺跡の未調査部分の発掘調査を行った。東野土居遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代初めと古墳時代後期の集落跡から新たに20軒の竪穴建物跡を検出した。過年度分と合わすと100軒を超える。さらに古代では方形の掘方の掘立柱建物跡、中世では一辺約80mの堀に囲まれた屋敷跡、18～19世紀の集落跡など弥生時代から近世にかけての多数の遺構を確認し、出土遺物はコンテナケース300箱以上を数え、過年度分を合わすと1,100箱を優に超す。徳王子広本遺跡の調査は平成19年度

表5 平成23年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託先
1	向山戦争遺跡	08-8NM	南国市伊達野	近代	戦争遺跡	H23.4/1 ～ H24.3/31	国交省	道路	県教委
2	北ノ丸遺跡	07-8TK 09-8TK	土佐市新居上ノ村 字北ノ丸	古墳 ～ 近世	集落跡	H23.4/1 ～ H24.3/31	国交省	河川	県教委
3	上ノ村遺跡	06-8TK 07-8TK 08-8TK	土佐市新居 上ノ村	縄文 ～ 近代	集落跡	H23.4/1 ～ H24.3/31	国交省	河川	県教委
4	西弘小路遺跡	09-7NK	高知市丸ノ内	古代 ～ 近世	武家屋敷跡	H23.4/1 ～ H24.3/31	法務省	庁舎	県教委
5	祈年遺跡	07-5NS 08-5NS 09-5NS	南国市小籠・東崎・ 下末松	弥生 ～ 近世	集落跡	H23.4/1 ～ H24.3/31	高知県	道路	高知県

に次ぐ調査で、今回で未調査部分の調査が終了した。整理作業では平成18年度に発掘調査した坪井遺跡、平成20・22年度に発掘調査した徳王子大崎遺跡、平成19年度に発掘調査した徳王子広本遺跡、東野土居遺跡について実施した。

高知西バイパスでは、中・近世の遺構が検出された西浦遺跡とバーガ森北斜面遺跡の岩神地区の発掘調査と天神溝田遺跡の未調査部分の調査を行った。なお、平成19年度から発掘調査に着手した枝川ICから鎌田IC間の高知西バイパス関係の調査も試掘調査が一部残るものの平成24年度の奥名遺跡と天神溝田遺跡の未調査部分のみである。

次に、波介川河口導流事業に伴う委託事業では、上ノ村遺跡と北ノ丸遺跡が対象で、平成22年度から本格的な整理作業に入り、本年度が最終年度で、残りの報告書5冊を刊行し、すべての作業を終了した。

高知法務総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡は平成22年度から2ヵ年計画で、整理作業を行っており、平成23年度は報告書刊行に向けた整理作業を行い、終了した。

県関係では、中央東土木事務所関係の祈年遺跡の整理作業を昨年度に引き続き行い、4分冊で刊行予定の報告書の内、2・3分冊目(平成22年度に1分冊目を刊行している。)を刊行した。平成24年度に最後の4分冊目を刊行し、終了する予定である。

以上、平成23年度の受託事業の概要を記したが、発掘調査では東野土居遺跡、整理作業では上ノ村遺跡がその中心となった。刊行する報告書の冊数は平成23年1月から300冊となり、平成23年度

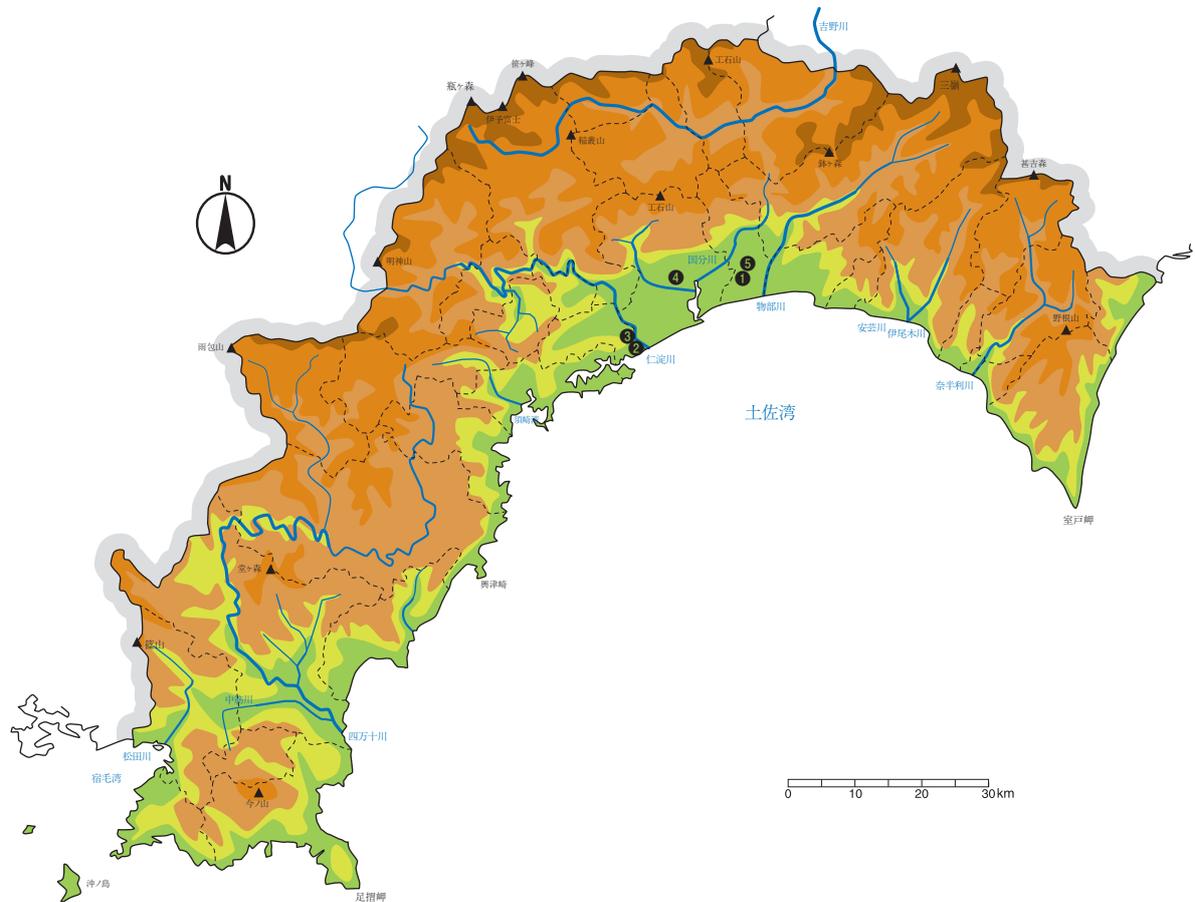


図7 平成23年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)

1. 発掘調査事業

もそれを踏襲した。

(2) 発掘調査報告書

平成23年度は平成22年度より2冊多い9冊(第122～130集)の報告書を刊行(表6)した。一方、印刷経費は平成22年度が9,772,350円であったのに対し、平成23年度は、印刷冊数がすべて300冊となったことと頁数の少ない報告書が多かったことにより、4,102,350円少ない5,670,000円であった。この内、5冊の報告書を刊行した波介川河口導流事業に伴う発掘調査関係が全体の約64% (3,600,450円)を占めた。

事業別に見てみると、波介川河口導流事業関係では、『北ノ丸遺跡Ⅱ』、『上ノ村遺跡Ⅲ』～『上ノ村遺跡Ⅵ』がある。『北ノ丸遺跡Ⅱ』は遺跡南側の調査成果(第4・5地点)をまとめたもので、古墳時代の木製品や古代末から中世の大畦畔の可能性が考慮される遺構などが検出されている。『上ノ村遺跡Ⅲ』は仁淀川に隣接した調査区(3地点)の報告で、古代末から中世にかけての遺構と共に瓦器と常滑焼などがまとまって出土している。『上ノ村遺跡Ⅳ』は本シリーズの中では最も大部の報告書で、新

表6 平成23年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第122集	北ノ丸遺跡Ⅱ 波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅳ	土佐市新居 上ノ村字北ノ丸	出原恵三, 坂本憲昭, バリノ・サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第123集	西弘小路遺跡 高知法務総合庁舎新管理蔵文化財 発掘調査報告書	高知市丸ノ内	池澤俊幸, 北野信彦
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第124集	祈年遺跡Ⅱ 国道195号道路改築に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書	南国市東崎他	近藤孝文, 前田光雄
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第125集	祈年遺跡Ⅲ 国道195号道路改築に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書	南国市東崎他	前田光雄
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第126集	向山戦争遺跡 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ)	南国市伊達野	出原恵三
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第127集	上ノ村遺跡Ⅲ 波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅴ	土佐市新居 上ノ村	出原恵三, 坂本憲昭, 藤尾慎一郎他
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第128集	上ノ村遺跡Ⅳ 波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅵ	土佐市新居 上ノ村	坂本憲昭, 宮里修
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第129集	上ノ村遺跡Ⅴ 波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅶ	土佐市新居 上ノ村	池澤俊幸
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第130集	上ノ村遺跡Ⅵ 波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書Ⅷ	土佐市新居 上ノ村	池澤俊幸

居城跡南麓部(1地点)の調査成果をまとめたものである。縄文時代晩期の土坑、弥生時代中期末の凹線文土器と多量の鉄器と鉄片、平安時代中期の緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器などの搬入品が目される。『上ノ村遺跡Ⅴ』は1地点の残りの部分の成果をまとめたもので、中世初めの搬入品が比較的多く出土する。『上ノ村遺跡Ⅵ』は現存していた近代前期頃の石積堤防遺構とその下層から新たに検出された近世前期の石積護岸遺構に関する調査報告である。

次に県土木関係では国道195号道路改築に伴う祈年遺跡の調査成果をまとめた『祈年遺跡Ⅱ』と『祈年遺跡Ⅲ』がある。『祈年遺跡Ⅱ』は遺跡東端部の調査区(Ⅸ・Ⅹ区)の調査成果をまとめたもので、弥生時代後期の竪穴建物跡6軒と古代の掘立柱建物跡6棟を中心に報告している。『祈年遺跡Ⅲ』は遺跡東部の調査区(Ⅶ区)の調査成果をまとめたもので、弥生時代後期の竪穴建物跡10軒、古代の掘立柱建物跡15棟などについて報告している。

これ以外に高知南国道路関係の『向山戦争遺跡』と高知法務総合庁舎新営関係の『西弘小路遺跡』を刊行した。『向山戦争遺跡』は第二次世界大戦末期に構築された「本土決戦」陣地跡の調査成果をまとめたもので、延長77mの坑道と作戦室と考えられる部屋や8本の交通壕など大戦末期の様相を知る資料が報告されている。『西弘小路遺跡』は江戸時代の武家屋敷を調査したもので、17世紀後半から18世紀前半の遺物を中心に武家屋敷の様相を知る資料が出土し、木簡や検出された溝跡から当時の絵図との関連も考慮される。

以上が、平成23年度に刊行した報告書の概要である。発掘調査を優先していた遺跡については平成24年度以降も順次報告書を刊行して行く計画であり、調査中の遺跡も含め平成28年度中までにはすべて刊行する予定となっている。

註

- (1) 国関係事業については事務所単位での国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。土佐国道事務所関係では、高知南国道路外として高知南国道路(田村北遺跡の発掘調査、関遺跡・向山戦争遺跡・田村西遺跡の整理作業)、南国安芸道路(東野土居遺跡・徳王子広本遺跡の発掘調査、坪井遺跡・徳王子大崎遺跡の整理作業)、高知西バイパス(西浦遺跡・バーガ森北斜面遺跡-岩神地区-・天神溝田遺跡の発掘調査、貢山城跡、鎌田遺跡、城ヶ谷山遺跡、バーガ森北斜面遺跡-三世庵地区-の整理作業)の発掘調査と整理作業を行い、高知河川国道事務所関係では、上ノ村遺跡と北ノ丸遺跡の整理作業を行った。高知法務総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡の整理作業についても国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。よって、国関係の受託契約は3件となる。県関係は前述のとおり、土木関係2件(祈年遺跡)と新資料館建設事業1件(文化生活部)の3件となり、平成23年度に発掘調査関係で受託した件数の合計は6件であった。
- (2) 高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査事業と新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務の2件
- (3) 波介川河口導流事業埋蔵文化財資料整理業務、高知法務総合庁舎新営埋蔵文化財発掘調査業務、国道195号地域活力基盤創造交付金埋蔵文化財資料整理委託業務(道交国(改築)第21-054-15号、道交国(改築)第21-054-28号)の4件
- (4) 南国市田村北遺跡、香南市徳王子広本遺跡・東野土居遺跡、いの町天神溝田遺跡・バーガ森北斜面遺跡(岩神地区)・西浦遺跡、高知市弘人屋敷跡の7遺跡
- (5) 南国市関遺跡・向山戦争遺跡・田村西遺跡・祈年遺跡、香南市坪井遺跡・徳王子大崎遺跡、いの町城ヶ谷山遺跡・貢山城跡・鎌田遺跡、土佐市北ノ丸遺跡・上ノ村遺跡、高知市西弘小路遺跡・弘人屋敷跡の13遺跡
- (6) 南国市向山戦争遺跡・祈年遺跡、土佐市北ノ丸遺跡・上ノ村遺跡、高知市西弘小路遺跡の5遺跡

2. 指定管理事業

平成23年度も昨年度に引き続き、(財)高知県文化財団として平成24年度までの3年間の指定管理者になり、高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行った。年間4回の展示会、79本の公開講座、64校への出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など広報普及事業に取り組んだ。

入館者(表7)は指定管理業務を行うようになって2年目の平成19年度には埋蔵文化財センター開設以来初めて2,000人を突破し、3年目の平成20年度は2,500人を超え、平成21年度は2,866人の入館者を数えた。しかし、平成22年度は対前年度比増加率が約2%の減となってしまったものの、平成23年度は団体見学が対前年度増加率で約31%増加したことなどから、過年度の増加率と平成22年度の入館者総数を基に設定した入館者目標3,000人を達成することができた。平成23年度の入館者総数は3,058人で、対前年度増加率は約9%の増となり、6年目で3,000人を越えることができた。この数字は指定管理者業務を行うようになった平成18年度の入館者数の約2倍を数える。

前述のとおり、入館者が目標を達成できた要因は団体見学の増加であり、中でも小中学校の施設見学が増えたことを挙げるができる。また、平成23年度も夏休み親子考古学教室を中心とした案内チラシを県下全小学校児童(約39,000枚)に配付し、周知を図ったことで前年度とほぼ同じ参加者を得たことも大きく、入館者数の約37%を占めた。インターネットが普及し、一般化したとはいえ、なかなか閲覧して頂ける機会が少なく、周知を図る手段としてチラシが有効であることや「勾玉づくり」や「火起こし」などの体験教室がニーズに合っていることを改めて示す結果であろう。一方、親子考古学教室が会期中に開催される巡回展以外はほぼ横這い状態で、目立った増加はみられない。本



写真1 年間行事カレンダー

表7 入館者推移表と平成23年度の入館者

年度	合計	内訳(人数)								入館者数内訳		
		常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	速報展	特別展	その他	子供	大人	展示報告・解説
H13年度	811	811	-	-	-	-	-	-	-	487	324	-
H14年度	821	177	-	644	-	-	-	-	-	493	328	-
H15年度	1,171	468	-	703	-	-	-	-	-	703	468	20
H16年度	1,522	402	802	319	-	-	-	-	-	913	609	-
H17年度	1,180	300	537	342	-	-	-	-	-	708	472	-
H18年度	1,555	504	449	-	-	-	482	-	120	582	973	47
H19年度	2,182	392	809	501	-	-	-	333	147	348	1,834	87
H20年度	2,561	-	1,224	-	451	328	-	253	305	740	1,821	147
H21年度	2,866	-	1,417	-	508	388	-	363	190	905	1,961	170
H22年度	2,816	-	1,558	-	347	331	-	383	197	1,019	1,797	104
H23年度	3,058	-	1,521	-	490	466	-	369	212	1,035	2,023	147
合計	20,543	3,054	8,317	2,509	1,796	1,513	482	1,701	1,171	7,933	12,610	722
平均	1,868	436	1,040	502	449	378	482	340	195	721	1,146	103

年度も親子考古学教室が埋蔵文化財センターの入館者数を得るための重要な講座であることには変わらない。

今後、入館者数を恒常的に増やして行くには、展示会の入館者を増やすことが求められるものの、前述のように小中学校など団体見学の招致が重要なポイントとなつてこよう。

月別の入館者数をみてみると、例年どおり夏休み期間である8月が圧倒的に多く1,202人(大人:555人、子供:647人)を数え、入館者の少ない月(3月:67人)の約18倍、月平均(約255人)の約4.7倍であった。県外からの入館者数は239人で、入館者総数の約8%を占めた。中・四国旧石器文化談話会などの研究会が開催されたことも県外からの入館者の増加に繋がったものと考えられる。

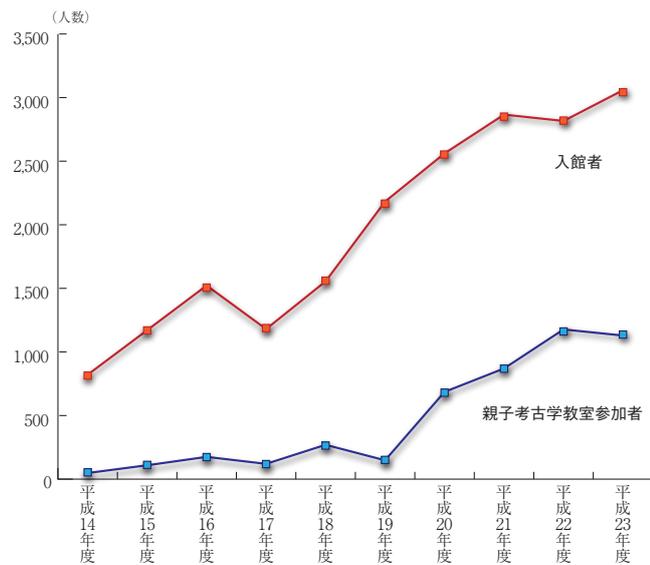


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

前述のとおり、平成23年度も団体見学の招致と親子考古学教室の一定回数の開催が入館者の増加に直結していることが示唆された(図8)。また、親子考古学教室の開催にはボランティアなどの支援者の確保も重要であり、今後支援者を増やして行くことが講座をスムーズに進めるポイントであろう。また、文化庁の補助金を利用した体験学習器具等の整備も講座の充実、そして、参加者の増員に繋がるものと思われ、今後、県の積極的な協力も欠かせないのではなかろうか。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開し、埋蔵文化財保護の推進及び普及啓発を図ると共に県民文化の振興に寄与することを目的として、平成23年度も年4回の展示会を開催した。なお、高知県立埋蔵文化財センターには展示室が1室のみであり、常設展示は行っていない。展示構成は、例年通り第1回を企画展1として「考古資料からみた高知県の歴史」と題した通史的な展示、第2回を四国地区埋蔵文化財センター巡回展である「第3回 続・発掘へんろー古墳時代ー」、第3回を企画展2として高知南国道路建設に伴う発掘成果の内、西野々遺跡について展示した「道路開発であらわれた遺跡展V」、第4回を特別展とし、「出土遺物からみる江戸時代の暮らし」と題した江戸時代の遺物を中心に展示を行った。各展示会では展示報告会と展示品解説を各1回、特別展では特別記念講演会を開催した。この内、巡回展、企画展2、特別展については報道機関に後援を依頼し、告知放送をお願いした。

① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題した企画展で、旧石器



写真2 企画展1ポスター

2. 指定管理事業

時代から江戸時代までの埋蔵文化財センターに所蔵する発掘調査で得られた出土文化財を展示することで、高知県の歴史を概観できるように心掛けた。また、観覧の便を供するために展示解説シートを作成した。会期は4月19日～6月24日までの50日間(休館日の土・日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等開催日は開館)で、5月7日(土)に展示報告会、6月11日(土)に展示品解説を開催し、報告会には31人、展示品解説には15人の参加があった。入館者数は490人で、対前年度増加率は約41%の増(表7・11)であった。



写真3 企画展1報告会

② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展第3回「続・発掘へんろ」



写真4 巡回展ポスター

四国四県の埋蔵文化財センターの共同企画展で、平成21年度から6ヵ年計画で「続・発掘へんろ」と銘打った展示会を開催しており、今回がその第3回となり、「四国の古墳時代」にスポットを当て、四国の古墳時代を前期、中期、後期に分けた上、祈りとマツリ、運ばれた土器・陶質土器・須恵器、塩の道、生活など個別テーマ別に各埋蔵文化財センターが実施した近年の発掘調査成果から展示した。会期は7月1日から9月11日までの73日間(休館日なし)で、入館者は1,521人あり、対前年度増加率は約2%の減であった。展示報告会(26人)や展示品解説(9人)の参加者(表7・11)は少なかったものの7・8月の夏休み期間に開催した親子考古学教室を中心にほぼ昨年度並みの入館者があった。

③ 企画展2

平成19年度から5ヵ年計画で実施している道路開発に関して発掘調査を行った遺跡の企画展で、本年度は「高知南国道路建設に伴う発掘調査成果から」について9月27日から11月26日まで50日間の会期(休館日の日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等開催日は開館)で開催し、10月1日(土)に展示報告会、11月5日(土)に展示品解説を開催し、報告会には24人、展示品解説には8人の参加があった。展示は平成16～19年度に発掘調査を実施し、昨年度報告書が刊行された西野々遺跡を取り上げた。弥生時代の集落跡、古代の官衙関連建物跡群や道路遺構、中世の屋敷跡から出土した遺物を列品し、調査した際の写真等も掲示し、遺跡の様子を概観して頂いた。併せてパンフレットで西野々遺跡の変遷も解説した。展示内容が分かりやすいなど比較的評判が良く、会期中の入館者は466人で、対前年度増加率は約41%増(表7・11)であった。



写真5 企画展2ポスター

④ 特別展

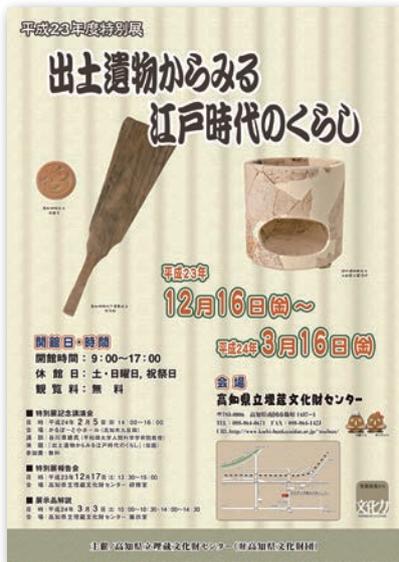


写真6 特別展ポスター

本年度は12月16日から平成24年3月16日までの65日間の会期で、「出土遺物からみる江戸時代の暮らし」と題した近世の遺跡や遺物に関する特別展を開催した。供膳具や調理具、火具、玩具など様々な用途で用いられた遺物を分かりやすく展示したものの、入館者は昨年度より14人少ない369人で、対前年度増加率は4%の減であった。展示テーマが県民の関心を喚起できなかったこととポスターがインパクトに欠けていたことなどが減少の要因ではなかろうか。また、特別展の関連企画として記念講演会には早稲田大学谷川章雄教授を講師に迎え「出土遺物からみた江戸の暮らし」と題した一般向けの講演会を2月5日(日)にかるぼと小ホールで開催した。講演会

の日が生憎の雨天であったためか参加者が42人と少なく、対前年度増加率は28%の減であった。なお、これ以外にも12月17日(土)に展示報告会、3月3日(土)に展示品解説を行い、報告会には18人、展示品解説には16人の参加(表7・11)があった。



写真7 特別展記念講演会

(2) 公開講座等

公開講座として考古学の知識と共に地域の歴史や遺跡について興味や関心を高めることにより、埋蔵文化財保護推進を図るため、① 考古学講座4回、② 発掘調査報告会4回、③ 親子考古学教室40回、

表8 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		親子考古学教室	考古学講座	発掘調査報告会	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会 発掘調査見学会	授業にいかせる考古学教室
平成14年度	48	48	—	—	—	—	—
平成15年度	109	109	—	—	—	—	—
平成16年度	175	175	—	—	—	—	—
平成17年度	120	120	—	—	—	—	—
平成18年度	431	270	136(54)	—	—	25	—
平成19年度	446	148	110(75)	138	35	6	9
平成20年度	1,122	686	83(47)	173	148	22	10
平成21年度	1,187	870	99(29)	106	89	17	6
平成22年度	1,499	1,177	80(21)	137	67	31	7
平成23年度	1,453	1,129(120)	87	99	124	11	3
合計	6,590	4,732	595(226)	653	463	112	35
平均	659	473	99(45)	131	93	19	7

※()内人数はセンター以外(四万十市・宿毛市・南国市)での参加人数

2. 指定管理事業

④ 授業にいかせる考古学教室1回, ⑤ 古代ものづくり体験教室16回, ⑥ 発掘現場見学会1回の6講座66回を実施した。

平成23年度も, 月1回以上の開催を目標に, 過年度とほぼ同じ6種類の講座を計画し, 夏休み前には「掘りゆうぜよ高知2011 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内の小学生全員に配布して講座の周知を図った。また, 今年度からよりきめ細やかな対応を行うため親子考古学教室の1回の参加人数の定員を30人にする一方開催回数は10回増やし, 昨年度と同じ定員を確保した。さらに古代ものづくり体験教室も人気のガラス玉づくりなどを6回追加し, 計16回開催した。

これらの講座の周知には年間行事カレンダーの配布以外に, 毎回高知新聞夕刊の伝言板に案内を掲載してもらうと共にこれまでの講座参加者には案内の葉書を郵送した。

① 考古学講座

平成23年度は「古代人の生活」をテーマとして年4回(表9), 午後1時30分から3時30分までの2時間の講座として開催した。本年度は4回とも埋蔵文化財センターで実施した。

参加総数は87人で対前年度増加率は約9%の増であった。毎回参加してくれる方もいる一方, 座学的様相が強い, ある意味専門的な

講座であり, 参加人数を増やすのはなかなか難しい。また, 近年他館でも各種講座を行っており, 開催日が重なったりして, 参加者が20名を切る講座(表8・11)もあった。

一方, 平成23年度は, 「古代人の生活」という統一テーマを設けることにより興味を持って参加して頂けると思ったが, 思ったほどの増加には繋がらなかった。そこで, 平成24年度は, 切り口を変え単なる解説的なものではなく, 自分の研究成果を披露する場となるよう計画し, 参加者の増員を図りたい。

② 発掘調査報告会

埋蔵文化財センターが実施した近年の発掘調査の内, 注目された4遺跡の発掘調査を取り上げ, 検出遺構など発掘調査の際のスライドを交えながら, 平易に解説すると共に出土遺物も実見してもらいより一層遺跡について理解を深めて頂いた。午後1時30分から3時までの90分の講座で, 年4回(表10), 埋蔵文化財センターで開催した。参加総数は99人で, 38人減少し, 対前年度増加率は28%の減であった。

例年, 発掘調査に参加してくれた作業員さんの参加が多いが, 平成23年度は埋蔵文化財センターから離れた町村での発掘調査や発掘調査終了後やや時間の経った講座には参加者(表8・11)が予想外に少なく, 前年度割れとなった要因と考えられる。

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で, 「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。

表9 平成23年度考古学講座(テーマ「古代人の生活」)

開催日	内容	担当者
第1回(平成23年5月21日)	装い	徳平涼子
第2回(平成23年7月16日)	争い	吉成承三
第3回(平成23年11月19日)	まつり	坂本憲昭
第4回(平成24年1月28日)	ものづくり	久家隆芳

表10 平成23年度発掘調査報告会

開催日	内容	担当者
第1回(平成23年6月18日)	南国市田村西遺跡	久家隆芳
第2回(平成23年9月3日)	香南市東野土居遺跡	筒井三菜
第3回(平成23年10月22日)	いの町バーガ森北斜面遺跡	吉成承三
第4回(平成23年12月3日)	香南市徳王子大崎遺跡	下村 裕

平成20年度から県内の小学生全員に「掘りゆうぜよ高知 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを夏休み前に配布し、開催回数も増やして実施している。前述のとおり行き届いた対応をするため平成23年度は各回の募集定員を40人から30人にした一方、開催回数を40回に増やし、募集定員は同数で実施した。申込日には応募が殺到し、8月上旬には予定していた1,200人の定員がほぼ埋まってしまう人気であった。職員だけでは、十分な対応ができないことからボランティア延べ37人にも協力してもらった。

講座は、2時間30分で、「勾玉づくり」では、まず、「勾玉の神秘」と題するスライドで勾玉の歴史について説明した上で、スライドにあった実際の勾玉を参考に滑石で勾玉を作ってもらった。火起こし体験では、実演した上で、「マイギリ式」による火起こしを行ってもらい、着火に成功した親子には「キリモミ式」にも挑戦してもらった。参加人員は1,129人(内訳大人466人、子供663人)で、募集定員が昨年度と同じ1,200人であり、対前年度増加率は約-4%(表8・12)と若干少なくなったもののほぼ同じであったといえよう。公開講座中では参加者が最も多い講座であると共に子供が考古学と出会う講座でもある。



写真8 掘りゆうぜよ高知2011

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学へ関心を持って頂くために平成19年度から企画したもので、高知県教育委員会の教職員研修等案内に掲載して頂くと共に、県内各校に案内メールを送信して募集を行った。開催は夏休み期間を利用して1回(8月2日(火))実施した。内容は、考古学概説や発掘調査現場体験、火起こし、勾玉づくり体験であった。天候に恵まれ、参加者には非常に好評であったものの、参加者(表8・11)は3人と昨年度の半分にも満たなかった。

表11 平成23年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者		
企画展1(4月19日~6月24日):開館50日			考古学講座		古代ものづくり体験教室			
展示報告会	5月7日(土)	31人	1	5月21日(土)	21人	1	5月28日(土)	13人
展示品解説	6月11日(土)	15人	2	7月16日(土)	21人	2	6月25日(土)	16人
巡回展(7月1日~9月11日):開館73日			3	11月19日(土)	10人	3	9月10日(土)	20人
展示報告会	7月9日(土)	26人	4	1月28日(土)	35人	4	10月15日(土)	9人
展示品解説	8月6日(土)	9人		発掘調査報告会		5	11月26日(土)	16人
企画展2(9月27日~11月26日):開館50日			1	6月18日(土)	32人	6	12月10日(土)	9人
展示報告会	10月1日(土)	24人	2	9月3日(土)	28人	7	1月14日(土)	22人
展示品解説	11月5日(土)	8人	3	10月22日(土)	20人	8	2月18日(土)	19人
特別展(12月16日~3月16日):開館65日			4	12月3日(土)	19人		発掘現場見学会	
展示報告会	12月17日(土)	18人		授業にいかせる考古学教室			10月19日(水)	11人
記念講演会	2月5日(日)	42人		8月2日(火)	3人			
展示品解説	3月3日(土)	16人						

2. 指定管理事業

一方、研修に参加して頂いた方の満足度はいずれも非常に高く、この研修に参加したことを切っ掛けとして、当センターを希望し、異動した先生も複数おり、学校現場においてはこの研修が効果をもたらすものといえよう。また、受講者が出前考古学教室に新たに申し込んで頂くこともあり、考古学、文化財保護の底辺を広げる上で効果が大きいものと考えられる。

しかし、研修開催日が夏休み期間に限られ、かつ人気の親子考古学教室など他の公開講座が多く、日程の設定が限られる上、地域の体育大会などとの日程が重複し、参加者をなかなか集めることができず、参加人数の減少となっているが、平成24年度以降は募集に関し、5～7月実施の出前考古学教室で可能な限り先生に直接事業説明と案内を行い、参加者の増加を図る計画である。

⑤ 古代ものづくり体験教室

親子考古学教室に次いで人気がある講座で、平成23年度は、新たに「銅鏡づくり」を加え、さらに回数も10回から16回に増やし、参加の機会を増やした。

開催回数を6回増やしたこともあり参加総数は57人増加の124人で、対前年度増加率は約85%の増(表8・11)であった。

この講座の特徴は、女性の参加者が目立つことで、中でも「ガラス玉づくり」は、その大半が女性であった。また、「ガラス玉づくり」は慣れを要する面もあることから初めての参加ではなかなか思ったものが作れない内に終わってしまうこともあり、2回以上参加してくれる方も複数いらっしゃった。

表12 平成23年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
7月26日(火)	12人	16人	11人	18人	57人	8月14日(日)	16人	17人	14人	19人	66人
7月28日(木)	-	-	14人	18人	32人	8月16日(火)	12人	16人	15人	24人	67人
7月29日(金)	10人	16人	11人	18人	55人	8月17日(水)	12人	15人	14人	18人	59人
7月30日(土)	13人	20人	-	-	33人	8月18日(木)	12人	22人	8人	13人	55人
8月3日(水)	11人	22人	11人	20人	64人	8月20日(土)	11人	17人	9人	9人	46人
8月5日(金)	12人	21人	9人	13人	55人	8月21日(日)	10人	12人	15人	16人	53人
8月7日(日)	14人	16人	13人	17人	60人	8月22日(月)	12人	17人	9人	15人	53人
8月8日(月)	12人	17人	9人	13人	51人	8月25日(木)	12人	17人	13人	16人	58人
8月10日(水)	11人	20人	5人	6人	42人	8月27日(土)	11人	15人	11人	18人	55人
8月12日(金)	15人	25人	13人	19人	72人	8月28日(日)	13人	16人	6人	6人	41人
8月13日(土)	13人	17人	12人	13人	55人	計	121人	164人	114人	154人	553人
計	123人	190人	108人	155人	576人	合計	244人	354人	222人	309人	1,129人



写真9 授業にいかせる考古学教室



写真10 古代ものづくり体験教室

⑥ 発掘現場見学会

埋蔵文化財センターが実施している発掘調査中の現場を調査員が案内し、遺跡の概要を解説するもので、本年度は南国安芸道路建設に伴って発掘調査を行っている東野土居遺跡で10月19日(水)に開催し、昨年度より20人少ない11人の参加(表8・11)があった。交通事情など不便な場所での開催が減少に繋がったものとみられる。

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、インターネット上のホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。展示会パンフレットなど新たな出版物を随時追加更新しており、インターネットを介して、最新のデータを閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料の公開活用を大きく進めることができた。全国的にも利便性のあるコンテンツであると思われる。

また、埋蔵文化財センターの活動記録として平成22年度の業務実施内容をまとめた『年報20号』を発刊した。

① ホームページ

平成19年度にリニューアルし、引き続き同じテンプレートを平成23年度版に更新すると共に見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日20～30件であった。



写真11 ホームページ

(助)高知県埋蔵文化財センター URL : <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

② Web公開データベース

高知県立埋蔵文化財センターの情報管理室に設置したWeb公開サーバーに埋蔵文化財情報管理表13 平成23年度Web公開した報告書等

掲載物	種類	掲載形式	データ量	分割数	発行年月日
北ノ丸遺跡Ⅱ	発掘調査報告書	PDF	12.9MB	2分割	2011. 9. 29
祈年遺跡Ⅱ	〃	〃	18.6MB	2分割	2012. 3. 22
祈年遺跡Ⅲ	〃	〃	24.3MB	3分割	2012. 3. 22
西弘小路遺跡	〃	〃	57.8MB	4分割	2012. 3. 6
向山戦争遺跡	〃	〃	22.8MB	2分割	2012. 3. 1
上ノ村遺跡Ⅲ	〃	〃	28.2MB	3分割	2012. 3. 15
上ノ村遺跡Ⅳ	〃	〃	58.5MB	6分割	2012. 3. 23
上ノ村遺跡Ⅴ	〃	〃	81.3MB	6分割	2012. 3. 16
上ノ村遺跡Ⅵ	〃	〃	62.8MB	6分割	2012. 3. 16
年報第20号(平成22年度実績)	年報	〃	4.3MB	—	2011. 8. 24
第3回 続・発掘へんろ	パンフレット	〃	5.1MB	—	2011. 7. 1
企画展2	〃	〃	3.6MB	—	2011. 9. 27
特別展	〃	〃	3.2MB	—	2011.12.16

2. 指定管理事業

システムと報告書PDFを置き、一般公開している。埋蔵文化財情報管理システムでは遺跡情報管理(遺跡台帳でPDF化した報告書があるものはそれにリンク)、収蔵図書情報管理(図書台帳)、県内発掘調査情報管理(県内の発掘報告書抄録)を掲載している。報告書PDFは名前のとおり、PDF化した報告書等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しており、平成23年度は前述の9冊の報告書と年報第20号及び現地説明会資料を新たに掲載した(表13)。また、複数の報告書を刊行している遺跡については、遺跡の紹介から関係報告書へアクセスできるように改良した。

PDFデータは一括ダウンロードとデータ量によっては分割ダウンロードもできるようにしてお

表14 平成23年度物品(県有物)貸出一覧

No.	期 間	依頼者	内 容	備 考
1	H23.4.1～H24.3.31	愛知県陶磁資料館	資料展での展示	
2	H23.4.1～H24.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展での展示	
3	H23.4.1～H24.3.31	高知大学 清家章	考古学実習の資料	考古学研究室での実習
4	H23.4.20～4.26	高知市立一宮小学校	社会科の教材	
5	H23.5.10	愛媛大学 村上恭通・藏本諭	卒業論文作成および研究発表のため	センター内での実見
6	H23.5.16	熊本大学埋蔵文化財調査室	縄文時代石製装身具の調査	センター内での実見
7	H23.6.18～7.23	佐川町立黒岩中学校	社会科の教材	
8	H23.7.4～7.19	高知市立潮江中学校	社会科の教材	
9	H23.7.29	氏家敏之	中四国旧石器文化談話会発表資料作成のため	センター内での実見
10	H23.8.1～8.2	下條信行	大陸系磨製石器研究のため	
11	H23.8.15～8.18	愛媛大学 藏本諭	考古学調査・研究	センター内での実見
12	H23.8.18～8.19	大阪大学 竹内裕貴	卒業論文執筆のため	センター内での実見
13	H23.9.8	愛媛大学 幸泉満夫	学術調査	センター内での実見
14	H23.9.10	関西大学 中東洋行	修士論文執筆のため	県立歴史民俗資料館内での実見・実測
15	H23.9.26～11.29	徳島市立考古資料館	特別企画展での展示	
16	H23.9.27～12.22	愛媛県立歴史文化博物館	特別展での展示	
17	H23.11.10～11.11	大阪大学 竹内裕貴	卒業論文執筆のため	センター内での実見
18	H23.12.1～H24.3.31	奈良文化財研究所	動物遺存体に残る加工痕の研究	居徳遺跡群出土動物遺存体60点
19	H23.12.5～H24.2.5	愛媛県鬼北町教育委員会	企画展での展示	
20	H23.12.8～H24.2.29	高知県立歴史民俗資料館	特別展での展示	
21	H24.2.13～5.31	島根県立古代出雲歴史博物館	企画展での展示	
22	H24.2.24	高槻市教育委員会 橋本久和	個人研究のため	センター内での実見
23	H24.4.1～H25.3.31	奈良文化財研究所	動物遺存体に残る加工痕の研究	貸出延長、居徳遺跡群出土動物遺存体60点

り、利用者の便を図っている。

Web公開データベースURL：<http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に則り、迅速かつ適切に管理と貸出を行い、交換図書として寄贈された報告書等も随時登録し、Web公開して一般の方に情報提供している。

なお、収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのインターネットで検索できるシステムとしている。

平成23年度の物品(県有物)等の貸出は23件(表14)で、うち他施設等への貸出は15件、残りの8件はセンター内での実見・実測であった。また、火起こし具セットなど物品の貸出は小中学校を中心に

表15 平成23年度施設等見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	南国市役所商工観光課	H23.4.7	7		7	展示見学, 館内見学
2	高知市立介良潮見台小学校	H23.5.2	80	2	82	展示見学, 館内見学
3	高知市立土佐山小学校	H23.5.11	12	2	14	展示見学, 館内見学, 体験学習
4	南国市立白木谷小学校	H23.5.13	7	1	8	展示見学
5	南国市立三和小学校	H23.5.17	18	2	20	展示見学, 館内見学, 体験学習
6	天王子育て支援グループ	H23.5.21	21		21	発掘現場見学
7	いの町中学校社会科部会	H23.6.21	3		3	展示見学, 館内見学
8	香南市立野市小学校	H23.6.24	28	2	30	展示見学, 館内見学, 体験学習
9	南国市教育研究所	H23.8.4	10	5	15	体験学習
10	潮幼稚園	H23.8.9	18	2	20	展示見学, 館内見学, 体験学習
11	昭和女子大学	H23.9.7	19		19	館内見学
12	いの町立伊野小学校	H23.10.13	54	3	57	展示見学, 館内見学, 体験学習
13	土佐市立北原小学校	H23.11.4	40	4	44	展示見学, 館内見学, 体験学習
14	土佐市立新居小学校	H23.11.7	28	4	32	体験学習
15	いの町立伊野中学校	H23.11.18	27	2	29	発掘現場見学
16	篠原長寿会	H23.11.30	20		20	展示見学, 館内見学, 体験学習
17	いの史談会	H23.12.7	30		30	発掘現場見学
18	馬路村立馬路小学校	H23.12.9	12	2	14	展示見学, 館内見学
19	いの町立伊野中学校	H23.12.9~14	93	4	97	発掘現場見学
20	南国市観光協会	H23.12.19	7		7	体験学習
21	上田建築事務所	H24.2.1	3		3	発掘現場見学
22	香南市立岸本小学校	H24.2.3	20	1	21	展示見学, 館内見学, 体験学習
23	南国市立北陵中学校	H24.2.14~16	2		2	職場体験学習
24	南国市観光協会	H24.2.26	51		51	体験学習
25	高知市立潮江中学校	H24.3.9	2	1	3	事業説明, 館内見学
合計			612	37	649	

2. 指定管理事業

6件、写真掲載については出版社や報道機関などから12件の許可申請があった。

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており、平成23年度は25件(表15)の団体見学の受け入れを行った。前述のとおり件数は埋蔵文化財センターの施設見学が20件、現場見学が5件で、全体で昨年度より7件、153人多く、対前年度増加率は約31%の増で、これが入館者目標を達成できた要因の一つと考えられる。

本年度の特徴は、小学校の展示見学と施設見学が10件と多かった点を挙げることができる。やはり、団体見学が入館数を増加させるには欠くことができない。一方昨年度埋蔵文化財センターへ訪れた団体件数の半分を占めた職場体験学習が南国市立北陵中学校1件(2人)と少なかった。

埋蔵文化財センターでは、考古学に関連する実習や研修を受け入れる体制を取っているものの、年度によって申込の増減がみられることから、今後は日頃から機会がある毎にアナウンスすることが重要であろう。



写真12 施設見学

また、発掘調査に伴う現地説明会(表16)も5回開催した。

表16 平成23年度現地説明会一覧

No.	年 月 日	場 所	遺 跡 名	参加人数	対象
1	平成23年7月23日	吾川郡いの町西浦	西浦遺跡	40人	地元
2	平成23年10月23日	香南市野市町東野・土居	東野土居遺跡	167人	一般
3	平成24年1月22日	南国市田村乙	田村北遺跡	65人	地元
4	平成24年2月17日	吾川郡いの町岩神	バーガ森北斜面遺跡	120人	一般
5	平成24年3月3日	高知市帯屋町・追手筋	弘人屋敷跡	120人	〃
合 計				512人	



写真13 現地説明会(東野土居遺跡)



写真14 地元説明会(田村北遺跡)

(4) 出前考古学教室

広報普及事業の中核をなし、平成10年度に南国市内を対象に試行事業として開始してから本年度で14年目(表17)を数える。指定管理者となった平成18年度から実施回数を増やしたこともあり、申込校が年々増加し、平成22年度は初めて100校を越え、平成23年度はやや減少したものの97件の申し込みがあった。可能な限り学校の要望に応えるべく前年度とほぼ同じ、実施回数を61回、実施校を64校で実施した。

① 概要

例年どおり、前年度末に実施校を決定した上で、4月に各学校の担当と実施日の時間帯や準備などについて電話等により打合せを行った。

事業は、大きく前期(5月～7月)と後期(10月～2月)に分け、前期については市町村教育委員会を通じて希望を取り、過去の実施実績、学校規模、地域性等を考慮して実施校37校を決定し、5月2日から7月13日にかけて35回行った。前期の授業参加者(展示・体験学習にも参加)は1,202人、展示・体験学習等のみの参加者は133人であり、前期全体では1,335人であった。

後期については新年度以降に受付を開始し、前期に実施できなかった学校など27校を決定して、10月6日から2月5日まで26回(合同を含む)実施した。前期申し込んだが実施できなかった学校の内、後期に申し込んで実施できたところがある一方、20校近くは後期の申し込みはなく、前期にできる限り対応しなければならぬと感じた。そのため、平成24年度は前期にできるだけ多く実施することとしている。後期における授業参加者(展示・体験学習にも参加)は843人、展示・体験学習等のみの参加者45人であり、後期全体の参加者は888人であった。前期及び後期を併せた参加生徒総数は、授業生徒数(展示・体験学習にも参加)が2,045人、展示・体験学習等のみ生徒数が178人の2,223人であった。

表17 平成10～23年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	実施回数	参加校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前半/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前半	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前半	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前半	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前半	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前半	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前半	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中学校	48回	53校	前・後	1,369人	1,438人
13	平成22年度	全県下	小・中学校, 高校	65回	66校	前・後	2,470人	2,571人
14	平成23年度	全県下	小・中学校, 高校	61回	64校	前・後	2,045人	2,223人
合計				520回	598校		19,077人	27,492人

2. 指定管理事業

また、平成17年度から県民参加による地域との連携を深めるためボランティアを導入し、平成23年度は6人の登録があったが、手続きの遅れ等によりこの事業では後期のみ4人の参加となった。今後、募集開始時期などについて検討をしたいと考える。

i 前期

前期は35回・37校(片地小と佐岡小、入野小と田ノ口小は合同)で実施した。授業を受けた児童生徒は1,202人、見学のみの児童生徒133人を含めると1,335人を数える。4月初旬から下旬にかけて電話とファックスで、実施日の時間帯や授業・体験学習の内容などについて打ち合わせを行い、5月2日のいの町立伊野南小学校を皮切りに7月13日の高知市立三里中学校までの37校で実施した(表18)。

ii 後期

後期は26回・27校(本山小と吉野小は合同)で実施した。授業を受けた児童生徒は843人、見学のみの児童生徒45人を含めると888人を数える。後期は1学期の終業式に合わせ、7月下旬に電話で日時の確認を行い、8月下旬から9月上旬にかけて各校との打ち合わせ(実施日の確認・実施内容の検討)を始めた。そして10月6日の土佐市立宇佐小学校から2月5日の室戸市立中川内小・中学校までの27校で実施した(表19)。

② 内容

出前考古学教室の内容は、大別すると「授業」・「体験学習」の2つから構成される。「授業」は各時代の特徴を踏まえつつ、高知県の各地域(主に身近な地域)の遺跡との関連性を捉えながら行うこととし、「体験学習」は火起こし、勾玉づくり、土器づくりなどである。いずれも歴史的背景を踏まえつつ児童生徒の興味関心を高めながら文化財保護に関する普及啓発を推進する目的をもった内容である。また本年度もボランティアの方々に火起こしや勾玉づくりの支援の協力をして頂いた。

i 授業

授業については、小中学校・高等学校の希望に沿った内容に基づき行った。6年生を中心にして歴史学習の一環と捉えて授業を希望する学校がほとんどであった。各学校では時代の流れや日本の代表的な遺跡の学習はしているものの、校区周辺の遺跡を知らない場合が多く、地域の遺跡を児童生徒に知らせて興味をもって欲しいと言う教員が多く、この要望に応えるべく地域の遺跡地図を学校別に作成し、自分たちの学校や地域に関心をもたせる授業を行った。時代区分については時代ごとのイメージをもたせる工夫をした。地域の遺跡学習では地図の読み方や遺跡と学校の位置関係を質問して、身の回りではどのような遺跡が発掘されているかを知り、昔の人々の生活を考える授業を展開した。そのほか発掘の仕方や整理作業の進め方、当センターの事業などについて説明した。



写真15 授業

ii 体験学習

無料で行う火起こし体験と有料のため希望校で行う勾玉づくり、そして土器づくりなども行った。

a. 火起こし

マイギリ式を中心にしてペアで火起こしを行い、発火したペアは希望すればキリモミ式にチャレンジした。この体験の目的は自然物を使った道具で児童生徒が火を起こし現代の恵まれた環境を見

表18 平成23年度出前考古学教室前期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒		担当職員(人)	ボランティア(人)
				学年	人数	学年	人数		
1	5/2 (月)	いの町	伊野南小	6	46	6	46	4	
2	5/6 (金)	佐川町	黒岩小	6	9	6	9	3	
3	5/9 (月)	高知市	春野中	1	115	1~3	123	6	
4	5/10 (火)	高知市	鏡小	6	12	6	12	3	
5	5/12 (木)	香美市	片地・佐岡小	6	21	5・6	25	3	
6	5/13 (金)	土佐市	蓮池小	6	42	6	42	3	
7	5/17 (火)	高知市	久重小	6	11	6	11	3	
8	5/19 (木)	香美市	大栃小	5・6	15	5・6	15	3	
9	5/20 (金)	須崎市	南小	5・6	23	5・6	23	3	
10	5/23 (月)	黒潮町	伊田小	5・6	8	4~6	21	3	
11	5/24 (火)	黒潮町	上川口小	5・6	15	5・6	15	3	
12	5/26 (木)	三原村	三原中	1~3	36	1~3	36	3	
13	5/27 (金)	四万十市	津野川小	5・6	7	1~6	19	3	
14	5/27 (金)	黒潮町	入野・田ノ口小	6	31	6	31	3	
15	5/30 (月)	室戸市	羽根小	5	16	1~6	87	3	
16	5/31 (火)	高知市	横浜新町小	6	93	6	93	6	
17	6/1 (水)	高知市	旭小	6	82	6	82	5	
18	6/2 (木)	津野町	中央小	6	22	6	22	2	
19	6/3 (金)	高知市	高知北高	1~4	17	1~4	17	2	
20	6/6 (月)	高知市	一ツ橋小	6	50	6	50	5	
21	6/7 (火)	宿毛市	大島小	5・6	44	5・6	44	3	
22	6/8 (水)	黒潮町	拳ノ川小	5・6	10	5・6	10	3	
23	6/13 (月)	黒潮町	三浦小	6	7	6	7	3	
24	6/14 (火)	土佐清水市	清水小	5・6	70	5・6	70	3	
25	6/19 (日)	仁淀川町	池川中	1~3	24	1~3	24	3	
26	6/21 (火)	高知市	潮江東小	6	96	6	96	6	
27	6/23 (木)	須崎市	浦ノ内小	5・6	16	5・6	16	2	
28	6/24 (金)	津野町	精華小	6	19	6	19	2	
29	6/27 (月)	安芸市	伊尾木小	6	7	6	7	2	
30	6/30 (木)	高知市	旭東小	6	60	6	60	6	
31	7/1 (金)	須崎市	横浪小	6	13	5・6	38	2	
32	7/4 (月)	越知町	越知小	6	46	6	46	2	
33	7/5 (火)	室戸市	三高小	3~6	14	3~6	14	2	
34	7/7 (木)	香美市	香長小	6	15	6	15	3	
35	7/13 (水)	高知市	三里中	1	90	1	90	3	
合 計					1,202		1,335	114	0

2. 指定管理事業

直すことにある。私たちは日々の生活で簡単に火をつけているが、それは先人が生活の中で努力や工夫によって身につけた知恵である。また古来から日本では火を神聖なものとして扱ってきたという歴史があり、昔の人々は火を大切にしてきたことを知るというねらいがある。火起こしは当日の天候や、使用する道具の「火きり棒」と「火きり板」との相性により発火具合が左右されることもある。発火に時間がかかる児童生徒もあったが、最後まであきらめずに取り組みほとんどのペアが発火させた。発火させたときの児童生徒の嬉しそうな顔は達成感で満ちており、協力し合うことで仲間づくりもできた。



写真16 火起こし

b. 勾玉づくり

勾玉づくりは市販のセットを使って作成した。材料の滑石は柔らかく工作が容易なので児童生徒は短時間でオリジナル勾玉を作成できる。勾玉は子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたなどと考えられており様々な形の勾玉がある。副葬品として土坑墓などから出土することが多く高知県でも数多くの勾玉が出土している。このような由来などを勾玉の写真を見て学習をした後、作り方を説明し勾玉づくりを行った。作成時間は1時間であるが丁寧に磨く時間が不足するために慌たしさを克服することが課題であった。予め勾玉の絵を描いておくよう依頼した学校もあったが学校側の希望する授業時間との兼ね合いもあって、ゆとりがない学校もあった。児童生徒に一番人気であり欠かすことのできない体験学習である。「世界でひとつだけの勾玉」と作った感想を言う生徒の笑顔は充実感で満ちている。



写真17 勾玉づくり

c. 土器づくり

香南市立野市小学校で後期に土器づくりを行った。土器づくりは2回の活動が必要である。1回目は教室で粘土を使って児童が自分のお気に入りのミニチュア土器を作成した。粘土を使って丁寧に仕上げ教室の棚で1ヵ月間乾燥させた。その後香南市立野市小学校の畑に耐熱レンガを敷き詰めてその上で土器焼きを実施した。心配だったのは、せっかく作った土器が焼いたときに割れてしまうことであった。割れてもボンドで修正すればいいのだが、やはり自分の土器が割れるとショックは大きい。結果はほとんど割れることなく上手くいった。焼け跡がついた土器は味わいがあり縄文や弥生の土器を見る目が変わってくる。今後文様について興味を持つ児童生徒もでてくる可能性もある。来年度も希望校があれば実施していきたい体験学習である。



写真18 土器焼き

iii 遺物展示の解説

遺物は旧石器時代, 縄文時代, 弥生時代, 古墳時代, 古代, 中世のものを展示している。写真でしか土器や石器を見たことがない児童生徒が多く, 実物を見ると「これは本物なの?」と目を輝かせていた。土器に触れると笑顔になり感動している姿がみられた。遺物説明の際は, 授業と同様に発問をすることにより, 興味関心や遺物から古代の人々の生活を考える機会を持たせ, 埋蔵文化財の大切さや発掘の苦労話をしながら展示解説を行った。机上や教科書の中だけの授業より現実味を持たせることができた。今後も児童生徒の期待する遺物展示になるように日々工夫をしていきたい。

表19 平成23年度出前考古学教室後期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒		担当職員(人)	ボランティア(人)
				学年	人数	学年	人数		
1	10/6(木)	土佐市	宇佐小	6	34	6	39	2	
2	10/12(水)	佐川町	佐川小	6	53	6	53	4	
3	10/13(木)	宿毛市	松田川小	6	13	6	23	2	
4	10/14(金)	四万十市	竹島小	5・6	20	5・6	20	2	
5	10/24(月)	高知市	新堀小	6	44	6	44	5	
6	10/25(火)	香南市	野市小	4	28	4	28	5	
7	10/27(木)	土佐市	高岡第二小	6	22	6	27	2	
8	10/28(金)	高知市	春野西小	6	52	6	52	5	
9	11/7(月)	本山町	本山・吉野小	6	19	6	19	2	
10	11/8(火)	南国市	日章小	4	39	4	39	5	
11	11/10(木)	田野町	田野小	6	21	6	26	2	
12	11/12(土)	いの町	枝川小	6	60	6	60	3	3
13	11/24(木)	四万十市	下田小	6	15	6	15	3	
14	11/24(木)	四万十市	東山小	6	48	6	58	3	
15	11/25(金)	土佐清水市	幡陽小	5・6	15	5・6	25	3	
16	11/28(月)	高知市	第四小	6	68	6	68	5	3
17	11/29(火)	香南市	野市小	4	28	4	28	5	
18	12/5(月)	高知市	小高坂小	6	57	6	57	2	
19	12/6(火)	土佐清水市	三崎小	5・6	25	5・6	25	3	
20	12/7(水)	土佐清水市	下川口小	5・6	15	5・6	15	3	
21	12/8(木)	高知市	江陽小	5	78	5	78	5	3
22	12/9(金)	土佐市	高石小	5・6	17	5・6	17	2	
23	12/12(月)	土佐市	波介小	6	14	6	14	3	
24	1/26(木)	中土佐町	笹場小	3~6	7	3~6	7	3	
25	1/27(金)	宿毛市	小筑紫小	5・6	30	5・6	30	3	
26	2/5(日)	室戸市	中川内小・中	小・中	21	小・中	21	2	
合 計					843		888	84	9

③ 本年度の成果と今後の取り組みについて

i 実施回数及び実施校

前期は37校(35回)、後期は27校(26回)の計64校(61回)で実施できた。予定の開催校は50校程度なので多くの学校で開催ができ充実していた。前期の実施期間は3ヵ月と短い、考古学の分野と小学校の授業が重なる前期に希望が集中している。後期の実施期間は5ヵ月と長いので、前期に比べ土器づくりを含めて学校の希望する内容に沿うことができることをアピールしていきたい。県東部地域の応募が少ないことから、これらの地域への普及活動に一層力を入れていくことが大切と考える。

ii 活動内容(授業、展示解説、火起こし、勾玉づくり、土器づくり)

授業では、視聴覚機器を使って写真やアニメや遺物の実物を見せて、思考や想像ができるような工夫をしている。時間の制約があるが児童生徒は興味関心をもって授業に参加できている。遺物展示は、前述のとおり各時代の遺物を展示して解説している。児童生徒の視点に立ち、身近で興味のある話や時代別に土器を比較して興味関心を高めており今後も継続していきたい。体験学習は生徒の主体性を重視し支援している。火起こしはペアでの活動であり協力することの大切さを知る仲間づくりの意義もある。勾玉づくりは人数が多い学校において一人ひとりに細かい配慮が行き届くように担当者の数を多くして体制を充実させていきたい。土器づくりは1校での希望で実施したが児童の反応はよかった。今後も希望校があれば実施していきたい。

iii 学校側の受け入れ態勢について

前期は3月下旬までに実施日を決定し、4月から電話とファックスで内容の打ち合わせを行った。体験学習のみを希望する学校には、なるべく授業や展示解説を組み込んでもらい学習効果が高められるよう努めた。当日の学校の対応については、要請していた機器類や道具等が概ね揃っており円滑に運営することができた。後期も同様な手順を踏んで実施ができた。担当教員の方にはよく協力をして頂きスムーズな考古学教室が実施できた。

iv アンケート集計結果について(返信数 62校 児童生徒1409, 教員72)

まず、児童生徒からは、参加について「楽しかった」97.5%、「楽しくなかった」1.3%となっていた。内容については、良かったと思うもの(複数回答)として「勾玉づくり」92.6%、「火起こし」82.8%、「展示見学」56.1%となっている。もう一度勉強してみたいかどうかについては「してみたい」96.9%、「したくない」2.2%となっている。アンケート結果から体験学習が極めて好評であること、この機会を通じて埋蔵文化財に多くの児童生徒が興味・関心を持ったことが窺われる。

次に、教員からは、実施について「良かった」95.8%、「良くなかった」0%、今後については「希望する」94.4%、「希望しない」1.4%となっている。学校現場の教員から見た評価も概ね良いと思われる。評価が高かった内容は火起こしと展示見学であった。これまでも児童生徒がいきいきと活動できたという意見や、社会科は苦手だったが歴史が好きになったなどという意見が寄せられおり、着実に成果があがっている。

担当教員数や時間的な制約は否めないが、アンケート結果を踏まえ、今後の授業の内容や体験活動をさらに充実させるため、学校現場との連携を密にしていきたい。

v 道具類について

火起こしの道具はマイギリ式とキリモミ式を利用している。マイギリ式は破損が多く毎回点検や修理をしているが、劣化した道具は新しいものとの交換が必要である。今後は安価でより良い道具

を継続的にどのように調達していくかが課題である。キリモミ式は材料であるうつぎの調達や加工の必要があり、その栽培や収穫など手間をかけて、より着火しやすい道具に加工する必要がある。

火きり板は業者から購入をしており、できるだけ安価なものを調達する必要がある。火種を落とすものとして昨年までは脱脂綿を利用していたが今年から脱脂綿の上に麻を広げて使っている。火種が抜け落ちず着火しやすいので効果があった。今後も継続していきたい。

vi 担当職員について

2名の担当職員を中心に運営したが、児童生徒の多い学校では他の職員の協力を得て対応した。児童生徒が本物の土器や石器などに触れて考古学に興味関心をもつことができれば成功であると考えて、職員間で連携をとりながら授業や展示解説等に精力的に臨んだ。地域の遺跡が自宅の近くや学校の周辺にあることを知り、強い関心を寄せる児童生徒や教員も多数みられた。

今後は、出前考古学教室を契機として地域や高知県の埋蔵文化財に関心をもってもらおうと共に、児童生徒の意欲がでるような内容を精選して臨もうと考えている。

vii 学年PTA行事

学年PTA行事は保護者が主体となって行う学校行事で、教職員及び保護者と埋文職員との三者での打ち合わせで計画される。保護者にも出前考古学教室を通じて普及ができることは貴重なことである。学年PTAでは勾玉づくりを希望することが多い。その中では勾玉づくりだけでなく、勾玉の由来や発掘された勾玉について視聴覚教材を使って解説ができ、さらに勾玉づくりをすることで親子の絆がより深まれば微笑ましい。

viii ボランティア

今年度は4名のボランティアの方々に協力して頂いた。特に、勾玉づくりの児童の支援をして頂き助けられた。今後もボランティアの方々の協力があれば効果的な活動ができるので続けて募集を希望したい。

④ 結び

出前考古学教室は今年で14年目を迎え、高知県の西から東へと60校以上の学校に出向き開催することができた。参加数も年々より多くの児童生徒と触れ合う事ができ、この事業に対する期待も大きくなっている。また児童生徒や教職員だけでなく保護者にも考古学教室の普及啓発ができ埋蔵文化財への関心をもってもらえれば大変喜ばしいことである。多くの人々が地域の遺跡を知り歴史



写真19 職員専門研修1



写真20 職員専門研修2

2. 指定管理事業

表20 平成23年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師	所属
1	放射性炭素年代測定(AMS)の成果と今後の課題について	平成23年7月13・14日	藤尾 慎一郎	国立歴史民俗博物館
2	国内出土の漆器にみる高知の漆器の特徴について	平成23年11月21・22日	北野 信彦	東京文化財研究所

表21 平成23年度埋蔵文化財担当者研修参加者

No.	参加研修名	研修場所	期 間	氏 名
1	建築遺構調査課程	奈良文化財研究所	平成23年6月13～17日	宮里 修
2	遺跡等環境整備課程	〃	平成24年1月10～20日	下村 裕
3	第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	奈良県・奈良市	平成24年2月8～10日	山崎孝盛

表22 平成23年度講師等派遣依頼一覧

No.	日時・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
1	6月28日	廣田佳久	高知セカンドライフ友の会	講師依頼 「土佐の古墳」	
2	7月10日	久家隆芳	下関市考古博物館	講師依頼 「南四国における弥生時代の始まりと展開」	
3	7月29日	森田尚宏	高知県学校給食共同調理場協議会	講師依頼 「古代人の食べたもの」	
4	8月20日	前田光雄	こうちミュージアムネットワーク	講師依頼 「嶺北の考古学」	
5	10月1日～2月18日	廣田佳久	高知県立大学	高知県立大学非常勤講師 (考古学・博物館学)	木・金曜日の5限目
6	10月30日	吉成承三	津野町教育委員会	講師依頼 「姫野々城について」	
7	12月2・3日	森田尚宏	別府大学文化財研究所	シンポジウム「大航海時代と日本」パネリスト	
8	1月13日	吉成承三	高知城友の会	講師依頼 「高知城の石樋・井戸をフィールドワークする」	
9	1月15日	近藤孝文 藤野明弘 中石忍	高知市青年センター サークル協議会	講師依頼 「古代人の生活を知る・勾玉作成の体験をする」	
10	2月5日	山崎孝盛	徳島県埋蔵文化財センター	講師派遣 「太平洋・黒潮を通じた交流」	
11	2月29日	吉成承三	中土佐町教育長	中土佐町文化的景観保存計画策定委員会におけるアドバイザー	
12	3月14日	池澤俊幸	高知東ロータリークラブ	講師派遣 「高知市周辺の中近世遺跡」	

に興味をもつことができれば地域の良さを見直すことができる。高知は、銅銚に代表されるように弥生時代や600を超える戦国期の山城跡が展開する中世を中心に遺跡の所在が確認されている。このような情報は私たちに誇りを持つことを教えてくれる。考古学は現代の私たちの自尊感情を高め、未来への橋渡しをしてくれる。火起こしや勾玉づくりや土器づくりの体験学習は古代の人々の生活の知恵を現代人に伝えてくれる。今後も高知県の文化を継承発展させていくためにも出前考古学教室を意義あるものにしていきたい。

(5) 研修事業

調査員の資質向上を目的として、平成23年度は国立歴史民俗博物館の藤尾慎一郎教授と東京文化財研究所の北野信彦伝統技術研究室長を招き7月と11月に専門研修(表20)を行った。

また、本年度は奈良文化財研究所主催の埋蔵文化財専門研修(表21)「建築遺構調査課程」と「遺跡等環境整備課程」に各1名が参加し、専門的知識の向上を図った。また、文化庁・奈良県主催の平成23年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会(表21)に1名を派遣した。

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講演や大学の非常勤講師の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は12件(表22)の派遣を行った。

また、会議等への派遣は表23のとおりである。

表23 平成23年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	第3回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成23年4月25・26日	徳平涼子
2	上ノ村遺跡の石積み堤防等発掘調査に係る指導及び資料調査	平成23年7月4・5日	池澤俊幸
3	第3回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成23年9月20日	中石忍・徳平涼子
4	平成23年度全埋協コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック会議(松山市)	平成23年9月29・30日	中石忍・徳平涼子
5	上ノ村遺跡(1-7区)出土鉄器のX線写真撮影	平成23年10月7日	宮里修
6	平成23年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(北九州市)	平成23年10月13・14日	森田尚宏・下村裕
7	平成23年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 研修会(白河市)	平成23年10月27・28日	嶋崎るり子・中石忍
8	第3回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成24年1月5日	廣田佳久・中石忍
9	第2回「続・発掘へんろ」調査成果報告会	平成24年2月5日	山崎孝盛
10	平成23年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	平成24年2月8～10日	山崎孝盛
11	東野土居遺跡金属製品保存処理委託業務に係る 中間検査	平成24年2月10日	下村裕
12	第3回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成24年3月21日	廣田佳久・中石忍

3. その他の事業

3. その他の事業

高知県文化財団が独自に実施している職員自主企画研修事業に、本年度、埋蔵文化財センターからは2名の職員が研究企画書を立案し、2名が採用され、研修(表24)に赴いた。

表24 平成23年度職員自主企画研修参加者一覧

No.	研修テーマ	研修期間	研修先	参加者
1	古代官衙施設の比較研究	平成23年11月8～11日	三重県・滋賀県	廣田佳久
2	東アジアに流通したタイ産陶磁器 およびその生産技術に関する調査	平成24年2月3～14日	タイ王国	池澤俊幸



写真21 自主企画研修1(伊勢国政庁跡)



写真22 自主企画研修2(WANG NUA窯)

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 東野^{ひがしのどい}土居遺跡(11-1KH)

所在地 香南市野市町東野・土居

立地 台地

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成23年4月25日～平成24年2月20日

調査面積 32,140㎡

担当者 出原恵三・安岡猛・小山求・谷脇正・久家隆芳・筒井三菜・下村裕・山崎孝盛・菊池直樹・松本安紀彦

調査内容 東野土居遺跡は香南市野市町東野から土居にかけて所在する遺跡で、国土交通省が計画している南国安芸道路の建設工事に伴い平成21年度から本格的な発掘調査を実施し、本年度で調査は最終年度を迎えた。本遺跡は高知

平野東部を流れる香宗川西岸に広がる古期扇状地である野市台地上に立地しており、東西約1,150m、南北約380mと広範囲に亘る。本年度は平成22年度に引き続き、本遺跡の中心となる土居地区と遺跡の西端に当る東野地区の発掘調査を実施した。調査を実施するに当り国道55号沿いの東野地区を調査第Ⅰ区と設定し、それより東に向けて調査第Ⅱ区、調査第Ⅲ区、さらに調査第Ⅳ区とした。

本年度の発掘調査では、弥生時代から古墳時代、古代、中世、近世に至る多数の遺構と遺物を検出した。

弥生時代から古墳時代では、本調査対象地のほぼ中央に位置する調査第Ⅲ区とその東隣に位置する調査第Ⅳ区において竪穴建物跡を中心とする遺構と遺物を検出した。弥生時代終末から古墳時代初頭・後期の概ね2時期の竪穴建物跡を20軒確認しており、平成22年度に検出された竪穴建物跡と合わせると本遺跡では100軒以上の竪穴建物跡が確認されたことになる。今回確認された竪穴建物跡のほとんどは上面遺構(中世)による掘削がみられたが、平面形態はほぼ方形を呈しており、四隅にベッド状遺構を伴うものも確認された。古墳時代後期の竪穴建物跡の北壁には、カマドが造り付けられていたであろう跡が確認できたものもみられた。調査第Ⅲ区で検出された竪穴建物跡は調査区の東側に集中しており、西側では確認することができなかった。今回の調査では調査第Ⅳ区から続く居住域の西端を確認できたことになり、調査第Ⅳ区と合わせた居住域は東西約250mに亘っていたことが分った。

また、調査第Ⅳ区においては土器棺を新たに2基検出した。明確な掘方は確認できなかったものの棺には壺と甕を使用しており、土器の大きさからは子供(嬰兒や幼児)の棺であったものと考えられる。平成22年度の調査では北側に隣接した調査区で弥生時代終末の土器棺を5基確認しており、今回検出された2基も同時期のもの



図9 東野土居遺跡位置図



写真23 竪穴建物跡

1. 東野土居遺跡

で、これら土器棺は集落のすぐ側に埋葬されたものと考えられる。また、遺物では庄内式土器の甕と東阿波型土器の甕が出土しており、当時の交流を考えていく上で貴重な資料となっている。

古代では調査第Ⅲ区と調査第Ⅳ区を中心に当該期の遺構と遺物を多く検出している。調査第Ⅲ区においては7世紀代の土坑墓、8～9世紀代の掘立柱建物跡、土坑などの遺構と須恵器、土師器、黒色土器等の遺物を確認することができた。土坑墓は調査区南東隅において検出した。一部後世の攪乱を受けていたが、平面形は隅丸方形を呈していたと推測され、埋土から完形の土師器の杯と須恵器の杯が並んだ状態で出土した。出土遺物の状況や遺構の形状等から土坑墓であった可能性が示唆される。埋土等を精査したが木棺片等は確認することができなかった。

掘立柱建物跡は2棟検出されており、その内、1棟は桁行2間×梁行2間の総柱建物跡であった可能性が考えられる。その他には10世紀代と考えられる方形状を呈した土坑を数基検出した。その中には土師器の杯と共に墨書を施した黒色土器の椀もみられた。墨書は底部外面と体部外面に施されており、祭祀などに関連した遺構の可能性も示唆される。

調査第Ⅳ区では掘方が隅丸方形を呈し一辺約1.0mを測る柱穴で構成された桁行3間×梁行3間の総柱建物跡が検出された。北側に隣接する調査区(平成22年度調査)において、桁行4間×梁行3間を測る総柱建物跡が確認されており、この総柱建物跡の南側に隣接する形で今回の総柱建物跡は検出されている。これらはともに同時期に存在していたものと考えられる。調査第Ⅳ区では、平成22年度調査において総柱建物跡を含む建物跡や溝跡、円面硯や布目瓦等が確認され、官衙関連の施設や周辺に寺院があった可能性が考えられており、今回確認された建物跡もこれらに関連した施設であった可能性が考慮される。

中世では、調査第Ⅲ区のはほぼ全域と西側に隣接する調査第Ⅱ区の東端において多数の遺構と遺物が検出された。遺構では掘立柱建物跡、溝跡、土坑、柱穴等が確認された。溝跡はコの字状やL字状を呈するものが多く、その形状や遺構の並びなどから屋敷の区画溝と考えられる。溝跡の幅は2.0m前後、深さ約0.6mのものから、幅約1.0m、深さ約0.2mを測るものがみられ、その区画は1辺が約35～55mのものまで存在している。これらの区画は調査第Ⅲ区において推定で10～11区画確認でき、区画内には掘立柱建物跡を構成するであろう多数の柱穴群や土坑、付随する井戸跡等が検出された。その内、井戸跡は6区画において確認することができた。これら井戸跡の平面形は円形状を呈し、直径約2.0～3.3mを測り、素掘りで井筒や井戸枠などの施設は確認できなかった。これらの区画溝を中心とする遺構の大半は調査区外に続くものと考えられ、周辺には屋敷群が形成されていたと推測される。遺物では土師質土器や瓦質土器、貿易陶磁器(白磁、青磁)、国内産陶器(備前焼、常滑焼)など概ね13世紀後半から16世紀のものが出土している。土師質土器は皿や杯の供膳具がその殆どを占め、



写真24 土器棺



写真25 在地土器と搬入土器

羽釜などの煮炊具もみられる。国内産陶器では備前焼甕、常滑焼甕などの貯蔵具も出土している。

これら屋敷跡が確認された調査第Ⅲ区の西端では、堀に囲まれた館跡と考えられる区画域を検出した。堀跡は幅3.0～4.0m、深さ1.5～2.0m、断面形が箱形を呈しており、調査区の東西において2条ずつ(南北方向)と北側に1条(東西方向)を検出し、北西部で

はL字状に曲がるコーナー部が確認されている。南側については調査区外に当たるため不明であるが、その形状からは周囲を巡る堀跡であったと推定される。また東西に2条ずつ並行する堀跡を確認したことは、2重の堀により囲まれた館跡であったと考えられる。この堀跡は一辺が約80mに達するものと推定され、内側には堀跡と並行する溝跡、さらにその内側に掘立柱建物跡や付随する区画溝、柵列や井戸跡など多数の遺構を検出した。その内、井戸跡は素掘りで井筒や井戸枠等の施設を確認することはできなかったものの直径5.0～6.0m、深さ2.5m以上を測り、周辺の屋敷跡に付随する井戸に比べ大型なものであった。さらに、区画内からは屋敷墓と考えられる土坑墓が確認されている。平面形は隅丸方形を呈し、長辺が1.0m、短辺は0.5mに満たないものであるが、埋土からは土師質土器の皿と古銭が出土している。その他には堀跡に並行する数条の溝跡や多数の土坑、柱穴群を検出した。

これら遺構からは土師質土器や瓦質土器、国内産陶器、貿易陶磁器など中世を中心とする遺物の出土がみられた。堀跡の埋土からは土師質土器の皿や杯、瓦質土器の釜や鍋、備前焼甕や播鉢、古瀬戸、貿易陶磁器などが出土しており、概ね14世紀から16世紀に機能していたものと考えられる。この館跡を境にして西側の調査区では遺構密度が減少しており、今回確認された館跡は屋敷群の西の境界となる重要な施設であった可能性も考えられ



写真26 堀に囲まれた館跡(上空から)



写真27 堀に囲まれた館跡

1. 東野土居遺跡

る。本遺跡の北東部方向には中世から戦国期においてこの地で活躍した香宗我部氏の居城であった香宗城跡があり、そうした点からも今回確認された遺構群は香宗我部氏に関連した施設であった可能性が考えられるものである。

近世では本遺跡の西端の調査第Ⅰ区から、平成22年度の発掘調査に引き続き、掘立柱建物跡と区画溝で構成された江戸時代後期から続く集落跡が確認された。溝で区画された区画内には掘立柱建物跡を中心として矩形の土坑や円形状の土坑群、溜井戸、瓦質の土管を用いた暗渠など多様な遺構を検出した。溜井戸は区画溝に連結しており、導水施設として区画溝が使用されていたものと考えられる。また遺物として



写真28 近世遺構完掘状態

は、多量の棧瓦、国内産陶磁器や砥石、キセル、銅銭等が出土しており、概ね18世紀代と19世紀代に帰属するものと考えられる。土坑の中にはトイレまたは肥溜として使用していたと考えられるものもみられ、埋土からは砥石、陶磁器等の食器、銅銭が出土している。また、溝跡には縁を打欠いた酒杯もみられることから、これらは廃絶時の祭祀的行為と考えられる。

平成21年度から始まった3カ年に及ぶ本遺跡の発掘調査では、弥生時代終末から古墳時代初頭と古墳時代後期の集落跡、古代では官衙関連とみられる建物跡、中世では堀で囲まれた館跡や溝跡で区画された屋敷群、近世では集落跡などの多数の遺構と共に、弥生時代から近世に至る多量の遺物が確認され、これらはこの地域の歴史像を考えていく上で、貴重な資料となった。今後本格的な整理作業を通して東野土居遺跡の全体像が明らかになってくるものと考えられる。

2. 徳王子^{とくおうじ ひろもと}広本遺跡(11-2KH)

所在地 香南市香我美町徳王子字広本

立地 段丘・開析谷

時代 弥生時代～中世

調査期間 平成23年6月14日～8月8日

調査面積 2,250㎡

担当者 下村裕

調査内容 徳王子広本遺跡は国土交通省が計画している南国安芸道路建設工事に伴い、平成19・23年度に本発掘調査が行われた遺跡である。本遺跡は香南市香我美町岸本に立地する浜堤の北側に広がる低湿地に向けて北側から延びる段丘上に所在する遺跡で、平成19年度の調査では弥生時代や古代、中世の遺構・遺物が確認されている。

平成23年度の調査対象区域は平成19年度に調査を行った調査区の東側に位置しており、平成22年度に高知県教育委員会文化財課が実施した試掘確認調査において古代・中世の遺物が出土したことから、平成23年度に本発掘調査が行われた。

本調査区の地勢は西から東に向けて緩やかに傾斜しており、調査区中央部には北側から張り出した尾根状の地山が確認されている。西側の段丘と調査区内に張り出した尾根状の埋没丘陵に挟まれた部分是小規模な谷地形を呈しており、植物遺体を多く含むシルト質粘土～粘土で埋まっていた。平成23年度の調査では弥生時代や古代、中世の遺物が出土しているが、これらは西側の段丘から東に向けて緩やかに傾斜する緩斜面上に堆積した2次堆積とみられる堆積層から出土している。段丘上では弥生時代終末期の土坑や古代の掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡と区画溝などが検出されており、本調査区で出土した遺物はこれらの遺構が検出されている段丘上から流れ込んだものと考えられる。

また、弥生時代終末期と考えられる土坑と柱穴が調査区西部の段丘から東に向けて緩やかに傾斜する緩斜面上で検出されているが、遺構密度は極端に低い。また、低湿地を呈する調査区中央部から東部では遺構が確認されておらず、居住域としては不適であったと考えられる。

平成23年度に行われた本遺跡の調査をもって南国安芸道路建設工事に伴う香宗川以東の発掘調査は全て終了した。この平成19・23年度に実施された徳王子広本遺跡の調査成果と本遺跡周辺で発掘調査が行われた花宴遺跡、徳王子大崎遺跡、徳王子前島遺跡の発掘調査成果を併せることによって香南市香我美町の歴史がより明らかになっていくとみられる。

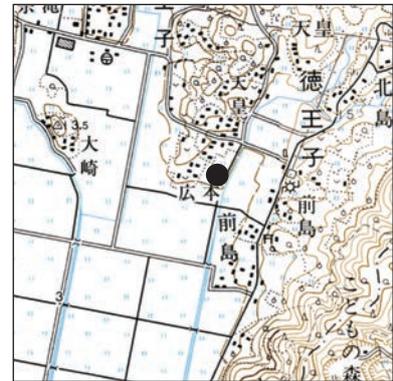


図10 徳王子広本遺跡位置図



写真29 弥生土器出土状態



写真30 完掘状態

3. 田村北遺跡

3. 田村北遺跡(11-3NTK)

所在地 南国市田村乙

立地 沖積平野

時代 弥生時代～中世

調査期間 平成23年9月27日～平成24年1月31日

調査面積 2,800㎡

担当者 谷脇正・久家隆芳・松本安紀彦

調査内容 田村北遺跡は、高知南国道路建設に伴い平成22年度から発掘調査を実施しており、県下では最大規模を誇る田村遺跡群の北側に隣接する。田村遺跡群は2度に亙る大規模発掘が実施され、縄文時代から近世に亙る多量の遺構・遺物が検出された。質・量ともに県下の他の遺跡を圧倒し、当地域の果たした歴史的役割の大きさを示している。

今年度の田村北遺跡の発掘調査では、弥生時代から中世の遺構・遺物を検出した。なお、1点のみであるが縄文時代晩期中葉の浅鉢の口縁部片が出土している。田村遺跡群では縄文時代晩期の遺構・遺物は皆無いため、晩期から弥生時代初頭への移行については判然としない点が多く、周辺部の今後の発掘調査に期待したい。

弥生時代では、中期末～後期初頭の竪穴建物跡、土坑、ピット、流路跡を検出した。重複関係を有する遺構が少ないことから、短期間に営まれたものと考えられる。当該期は田村遺跡群が最盛期を迎え、急激な人口増加に対応するため、新たな居住域として当調査区周辺が開発されたものと考えられる。竪穴建物跡は平面形が円形のものや隅丸方形のものが混在し、規模は直径あるいは一辺が4.0mと推測される、やや小型のもので構成される。土坑は、隅丸正方形、隅丸長方形、溝状等を呈するものがある。隅丸正方形のものは、一辺約2.0mの規模のものが多く、隅丸長方形のものは、長辺約1.5m、短辺約1.0mの規模のものが多く、形態と規模には相関関係が認められる。そのうち最大規模のものは、長辺約2.3m、短辺約1.5m、検出面からの深さは約0.6mを測る。火災に遭ったと推測されるものが数基あり、これらの内の1基から炭化米が多量に出土した。また、溝状土坑(舟形土坑)は、長さ約5.0m、幅約1.0m、検出面からの深さは約0.4mである。高知県では溝状土坑に掘立柱建物跡を伴う事例が多く、田村遺跡群、南国市西野々遺跡、土佐市北高田遺跡等において検出されている。今回の調査でも溝状土坑に並行して柱穴列を検出したが、掘立柱建物跡の復元には至っていない。

出土遺物は、弥生土器(壺、甕、鉢、高杯、蓋等)、石器(太型蛤刃石斧、石包丁、石鏃、叩石等)が出土している。弥生土器は、南四国系の土器と凹線文系の土器で構成されている。

さて、田村遺跡群の既往の発掘調査では、400



図11 田村北遺跡位置図



写真31 縄文土器出土状態



写真32 竪穴建物跡

軒を超える竪穴建物跡, 300棟を超える掘立柱建物跡が検出されている。その多くは弥生時代中期末から後期初頭のものであり, これらの竪穴建物群及び掘立柱建物群は大溝によって, 4~5つのグループに分けることができる。今回の調査で見つかった居住域は, それらのものとは別のグループであり, 遺構の継続期間, 規模, 密度等から集落の縁辺部に該当するものと考えられる。



写真33 土坑からの弥生土器出土状態

古代では, 掘立柱建物跡が1棟と自然流路跡1条等を検出した。掘立柱建物跡を構成する柱穴は一辺約0.8mの平面形が隅丸方形を呈し, 柱穴と柱穴の心々間の長さは約1.6mであり, 3間×2間程度の掘立柱建物に復元できる可能性がある。また, 棟方向は北から約12度東に傾いており, 香長平野の条里の方向に一致している。柱穴の規模, 棟方向から官衙関連の建物跡と推測される。周辺の遺跡をみると田村遺跡群では75棟, 西野々遺跡では約100棟の官衙関連の掘立柱建物跡が確認されており, さらに物部川を挟んだ対岸には香南市下ノ坪遺跡が存在する。以上のように当地域を含む周辺部には官衙関連の建物跡が点在し, 律令体制を支える重要な地域の1つであったことが窺われる。

自然流路跡からは, 須恵器や土師器等の遺物が多く出土した。古代の出土遺物のほとんどが, この流路跡からのものである。復元可能なものも多く, 一括して廃棄されたと推測される。また, 特筆されるべきものとしては緑釉陶器, 黒色土器, 赤彩土師器, 製塩土器等の出土を挙げることができ, 遺跡の性格を示唆している。



写真34 完掘状態

中世では, 約500m南に田村城館跡が存在するものの, 検出遺構・出土遺物は総じて少ない。柱穴等を数個検出したのみであり, 出土遺物は, 土師質土器, 瓦器, 青磁等である。

4. 西浦遺跡

4. ^{にしうら}西浦遺跡(11-4IN)

所在地 吾川郡いの町西浦

立地 丘陵谷部

時代 中世～近世

調査期間 平成23年4月25日～8月9日

調査面積 1,500㎡

担当者 吉成承三・武森清幸

調査内容 西浦遺跡は、吾川郡いの町西浦に所在し、標高18m前後を測る丘陵谷部に立地する。平成21年度に高知西バイパス建設に伴い、高知県教育委員会により事前の試掘調査が行われ、中世の遺構と遺物が確認されたことから新たに周知の遺跡包蔵地として登録された。

調査区の現況は宅地跡であり、調査区西部では近世(江戸時代後期)の遺構とみられる掘立柱建物跡、区画溝跡、廃棄土坑が検出され、掘立柱建物跡の柱穴からは礎盤として使用されたと考えられる扁平な石が検出されたものもある。また、同一面で中世の掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピットを検出した。調査区の南西部の谷部では中世の掘立柱建物跡、土坑、柵列などが検出され、掘立柱建物跡の柱穴の中には土師質土器を埋納したとみられるものも認められた。その他に土師質土器の羽釜や備前焼の播鉢などが出土し、先の掘立柱建物跡の時期と同じ14世紀後半～15世紀に位置付けられる。

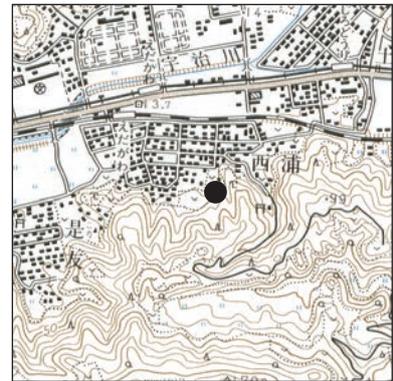


図12 西浦遺跡位置図



写真35 青磁出土状態



写真36 完掘状態(上空から)

5. バーガ^{もりきたしやめん}森北斜面遺跡(11-5IB)

所在地 吾川郡いの町是友・奥名

立地 丘陵谷部

時代 弥生時代・古代

調査期間 平成23年8月1日～平成24年1月31日

調査面積 2,400㎡

担当者 吉成承三・武森清幸

調査内容 バーガ森北斜面遺跡は、吾川郡いの町奥名・是友に所在し、仁淀川の支流、宇治川に沿った標高35～80mを測る丘陵上に立地する。当遺跡は、昭和32年(1957)に地元の人が土器を発見したことが端緒となり、昭和49年(1974)と昭和51年(1976)

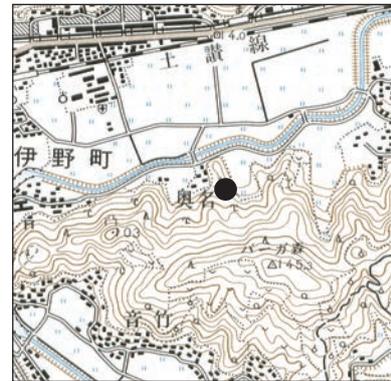


図13 バーガ森北斜面遺跡位置図

に三世庵と奥名地区について丘陵部の部分的な発掘調査が行われた。その結果、竪穴建物跡3軒と弥生時代中期後半の土器や石包丁、叩石、打製石鏃、鉄刀子、投弾などが出土し、谷を挟んだ標高35～80mを測る斜面に弥生時代の集落があることが確認された。その後、平成9年(1997)と平成11年(1999)にいの町農道改良工事に伴い新崎地区と岩神地区の発掘調査が実施され、弥生時代中期末～後期前半の竪穴建物跡や土坑などが遺物と共に発見されている。

平成22年度から、国土交通省が計画している高知西バイパス建設工事に伴い、バーガ森北斜面遺跡について記録保存を目的とする発掘調査を実施してきた。昨年度の三世庵地区の調査では、標高44～58mの山の斜面部で、斜面をL字形に削って平坦に造成した段部が5ヵ所みづかり、弥生時代中期末～後期初頭の竪穴建物跡や炉跡が多数の遺物と共に出土した。この段部は、幅4～5m、長さ10～20mのテラス状を呈し、谷奥では比高差4～6mの間隔で4段にみられた。竪穴建物跡の規模は直径3～5mを測る円形であり、一部の建物跡に貼床(粘土を床に敷く)が認められた。各建物の内部では、炉跡と思われるピットを検出した。各段部下の斜面では柱穴が並んで検出されており、柵列もしくは竪穴建物と一体的なものとして捉えることができる。また、竪穴建物跡の外部には焼土を伴う炉跡や石囲みの炉跡を検出することができた。

今年度の調査は、三世庵地区の西側に位置する岩神地区の丘陵部の調査を行なった。平成9年度に実施された町道工事に伴う発掘調査で竪穴建物跡が確認された調査区と隣接する。調査の結果、丘陵の西側斜面部の畑地で弥生時代中期末～後期初頭の竪穴建物跡、土坑、柱穴、溝跡、自然流路(谷川)跡などが検出された。竪穴建物跡は、標高30～35mの地点で3軒確認され、一部、拡張した可能性が考えられるものもみられる。その規模は径4～5mの円形を測る。また、隣接して、長辺1.4m、短辺1.2mの方形の土坑が検出され、炭化米と炭化した種子類が弥生時代中期末頃の壺と一緒に出土した。出土した炭化米は約500g、炭化した種子類は300gほどを抽出することができ、今後、分析を行なうことにより種類、時期など詳細な内容が判明するものと



写真37 土坑からの弥生土器出土状態

5. バーガ森北斜面遺跡

みられる。

今回の高知西バイパス建設工事に伴うバーガ森北斜面遺跡発掘調査では、堅穴建物跡を全部で10軒検出することができ、過去の調査分を含めて合計15軒が確認されたことになる。昨年度に調査を実施した三世庵地区は、眺望の良い東方に開けた谷奥に位置し、標高の高い斜面部に5軒の堅穴建物跡が上下に並ぶよ



写真38 堅穴建物跡

うに集中して立地しており、投弾や石鎌といった武器類が周辺でまとまって出土した。一方、今回の岩神地区では、奥名遺跡を囲む谷の比較的標高の低い緩斜面に集落が形成されており、調査区南部で検出された自然流路(谷川)跡に沿って堅穴建物跡が検出された。この堅穴建物跡は標高30mに立地しており、バーガ森北斜面遺跡で確認されている堅穴建物跡の中で最も標高の低い場所で確認されたことになる。岩神地区では堅穴建物跡に隣接して貯蔵穴が検出されるなど、三世庵地区と比較すると集落内部の遺構の様相差も窺える。出土遺物をみると、投弾の占める割合は極めて少なく、三世庵地区との組成が異なる。また、岩神地区の堅穴建物跡の支柱穴は明瞭であり、中央ピットを中心に持ち、多支柱構造であるのに対し、三世庵地区の堅穴建物跡は、簡易な2支柱構造などシンプルなものが多く建物構造の違いも窺えることから、今回の岩神地区で恒常的な生活が営まれていたと思われる、「山住み」の集落として位置付けることが可能である。

このように今回の調査では、高地性集落であるバーガ森北斜面遺跡の弥生時代中期末～後期前半にかけての全体的な集落構造と変遷をより具体的にみることができた。

さらに、今回の岩神地区の調査では、奈良時代～平安時代(8C後半～10C後半)の掘立柱建物跡、土坑、ピット、溝跡も検出され、土師器、須恵器、緑釉陶器、須恵器などが出土した。県内では、平野部の官衙関連遺跡の調査事例は比較的豊富であるが、今回のように丘陵地に広がる奈良時代～平安時代の集落遺跡の調査事例は極めて少なく、この時代の集落構造及び山の使われ方をみていく上で、貴重な成果があった。山裾に当る天神溝田遺跡、塔ノ向遺跡など周辺部に広がる奈良時代～平安時代の遺跡との関連も視野に入れ検討を進めていきたい。

6. 弘人屋敷跡(11-6KY)

所在地 高知市追手筋二丁目・帯屋町二丁目

立地 沖積地

時代 中世～近代

調査期間 平成23年11月24日～平成24年3月8日

調査面積 1,138㎡

担当者 宮里修・畠中宏文

調査内容 高知県が計画している新資料館整備事業の建設予定地は弘人屋敷跡として周知されている埋蔵文化財包蔵地であり、工事によって影響を受ける部分についての全面発掘調査が必要となった。建設予定範囲の約4,000㎡に対する発掘調査は平成23・24年度に継続して実施されることとなり、平成23年度の調査は用地取得の関係上、まず敷地の南側部分を対象とした。

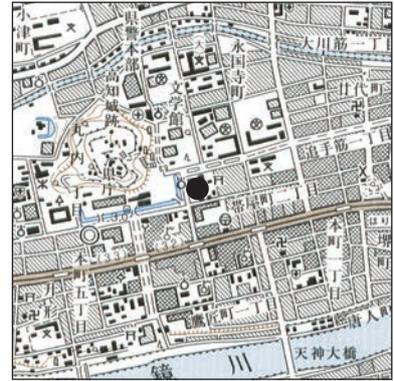


図14 弘人屋敷跡位置図

「弘人屋敷」の名は土佐藩家老・深尾弘人蕃頭の屋敷地であったことに因んでおり、近世家老屋敷の存在が調査の前提であったが、高知城の調査では14～15世紀に遡る遺構・遺物および長宗我部時代の城郭が発見されており、周辺遺跡の調査においても中世に遡る遺構・遺物の検出を視野に入れておく必要があった。平成23年度の調査の結果、発見された遺構は近代の土坑39基・溝状柱穴4基、近世の土坑28基・ピット7個・不詳遺構(整地遺構)3基、中世の流路跡1条であり、出土遺物は陶磁器、土器、木器など収容コンテナ約80箱分を収拾した。以下、基本層序および各時期の遺構・遺物について概要を記す。

遺跡の基本層序は大きく「現代層」「近代層」「近世層」があり、以下は河川に起源する礫層が続く。「現代層」は厚さ約60cmで表土に当たるアスファルトと碎石層、その下部の礫やコンクリート基礎を含む黒褐色土層および整地用の客土である橙色ローム層からなる。煉瓦、土管、空き缶、ガラス片などの遺物を含む。「近代層」は厚さ約30cmの暗褐色土層で、箇所によっては倍以上の厚みで堆積する。大小の礫を多量に含み、遺物の包含量も多い。下部にローム土を敷いた箇所もある。印判手などの陶磁器類や、瓦、土器、ガラス製品など多種多様な遺物を含む。「近世層」は厚さ約70cmであるが、箇所により違いがあり総じて北側ほど厚い。こうした違いは遺跡内の微地形に起因する。近世層は大きく上・下層に分かれ、上層は粒径の小さな礫を多く含む褐灰色土層、下層はあま



写真39 完掘状態

6. 弘人屋敷跡

り礫を含まない黄灰色土層である。近世層の下には、灰褐色砂質シルト層、灰色シルト層、礫層が堆積する。上部が灰色粘土層に覆われる部分もある。近世層と同様、南側ほどシルト層が薄い。現段階では中世の遺物包含層は確認できておらず、シルト層およびそれ以下は無遺物層と判断している。

調査区は現代建物基礎の遺存や排土処理の関係上、4つに区分した。東縁に南北に長いA区を置き、残りの区域に東西に長い3つの短冊形区画を設置し、南から順にB・C・D区とした。近世層を確認できた区域については遺構確認面を①近世上層上面(近代層最下層面)、②近世下層上面、③近世下層下面に設定した。

確認面①では焼土や瓦礫を含むゴミ穴、井戸など39基の遺構を発見した。いずれも近代～現代の遺物(陶磁器等の日用雑器)を含んでいるが、焼土を多く含む廃棄坑からは「一億一心」銘をもつ陶製のキセルや「岐682」銘をもつ統制陶器などが出土した。

確認面②では調査区の北寄り部分で遺構を発見した。性格不明のものが大部分であるが、柱穴が複数含まれており、平成24年度の調査により建物の構成要素となる可能性がある。土坑であるSK28では、炭化物を多量に含む下層覆土中に一括廃棄された多数のかわらけや陶器が含まれていた。不詳遺構SX01～03はいずれも木材を利用した整地遺構とみられ、このうちSX01・02は一種の粗朶と考えられる。SX01・02は現代建物基礎の下部で発見した。



写真40 土坑からの遺物出土状態

当初は東西の各所で別個の遺構として調査を開始したが、範囲確認の過程で両者は一連の遺構であると判明した。SX01・02は東西に長い30m大の不整鉤形土坑で、50cmほど掘り下げた土坑の底に木の枝を敷き詰めた後、粘土と木の枝を互い違いに充填していた。粗朶と呼ばれる土木技術を応用した整地遺構と考えられる。遺構内からは17世紀代の陶磁器や土器、漆器や柄杓などの木製品が出土した。SX03は調査区東

縁に27×10m規模で広がる長大な整地遺構である。90cmほど掘り下げた底面の全体に薄く剥いだ木の皮やシダ類を厚く敷き、その後一気に埋め戻している。埋める前の土坑にはU字状にめぐる土手状の高まりがあり、また埋没後の覆土には2列の杭列が鉤形に配置されるなど、その性格には不明な点が多い。出土遺物には能茶山焼や印



写真41 整地遺構

判手などの焼物が含まれており、幕末から近代にかけて構築されたとみられる。

確認面③では中世の流路跡を発見した。調査区中央C区において深掘り調査を実施した際、礫層のレベルで有機質が混じる褐灰色土層と灰オリブ色砂層の混合層を確認した。掘削を進めると深度は約1.0mに達し、底部付近からは獣骨も出土した。同質の土層が東西の各所で確認され、それぞれについて個別に調査を進めた。その後、



写真42 柄杓出土状態

水流によって運ばれたとみられる土層の堆積状況やびっしりと打ち込まれた木の杭が確認されたことにより、遺構の性格を水路ないし流路と推測できた。出土遺物は多くないが、播鉢や白磁・青磁等により中世に遡る遺構であることが確認できた。掘削を進め、また拡張を繰り返して範囲を確認した結果、東西2つの流路跡(SR01・02)は一連の遺構であることが判明した。すなわち、SR01・02は西から東に向かって流れる(恐らくは人工の)流路跡であり、調査区内で確認できた全長は約30m、流れは東端で南に90度向きを変える。そこから先は近代以降の削平により湮滅している。西側については平成24年度の調査で延長部分を確認できる可能性がある。西端と東側の鈎形に曲がり屈折する箇所は一際深くなっており、それぞれに杭列を粘土で固めた土手(堤防)が構築されている。出土遺物には13～14世紀代の青磁や播鉢、瓦器碗などがあるが、土手の内部からはおよそ15世紀代の青磁片が出土しており、遺構の構築時期を考える手掛かりとなる。



写真43 流路跡

7. 天神溝田遺跡

7. 天神溝田遺跡(11-7ITM)

所在地 吾川郡いの町字天神

立地 丘陵谷部

時代 古代～中世

調査期間 平成24年1月16日～3月7日

調査面積 280㎡

担当者 吉成承三・武森清幸

調査内容 天神溝田遺跡は、仁淀川の左岸に位置し、支流である宇治川との合流地点に立地する。平成20・21年度に実施した西バイパス建設に伴う発掘調査では、音竹城跡が立地する丘陵裾部を中心に中世の遺構と遺物、下層からは古代の遺構と遺物が確認された。

今年度の調査は、平成20年度にいの町道改良工事に伴い発掘調査を実施した調査区の南隣の丘陵谷部に位置する。調査区西端では中世の段階に成形されたとみられる段部があり、ピット、土坑を検出した。炭化材と鉄滓がまとまって出土した土坑もみられ、野鍛冶を営んでいた可能性が考えられる。地形は調査区の北東方向に向かって傾斜しており、調査区中央部から東側では平安時代を中心とした土師器、黒色土器、緑釉陶器などがまとまって出土し、土坑などが検出された。さらに、下面では、奈良時代末頃の土師器や須恵器などの遺物が出土し、ピット、土坑が検出された。また、平成20年度調査区で検出された掘立柱建物跡の延長部も今回の調査で確認され、建物の全体的な配置が明らかとなった。

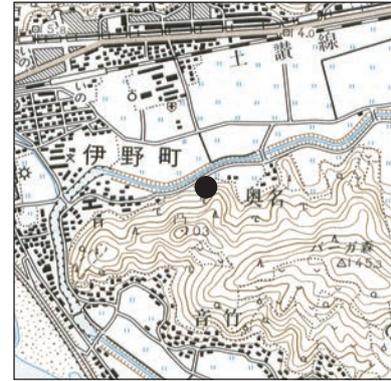


図15 天神溝田遺跡位置図



写真44 遺物出土状態



写真45 遺構完掘状態

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令21高文財第670号

財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年7月19日条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成21年12月17日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成22年4月1日から平成25年3月31日まで

本書作成データ

ハード：MacPro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon, PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOS X (10.6.8)

ソフト：JeditX2.27, Microsoft Excel Mac2011, ProofReader2.1.0, Adobe Photoshop® 12.0.4, Adobe
Illustrator® 15.0.2, Adobe Indesign® 7.0.4Jなど

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italicなど

プリンタ：DocuPrint C3540(文書校正)

データ：Macintosh Full DTPで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第21号

2011年度

発行日 平成24年10月5日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

